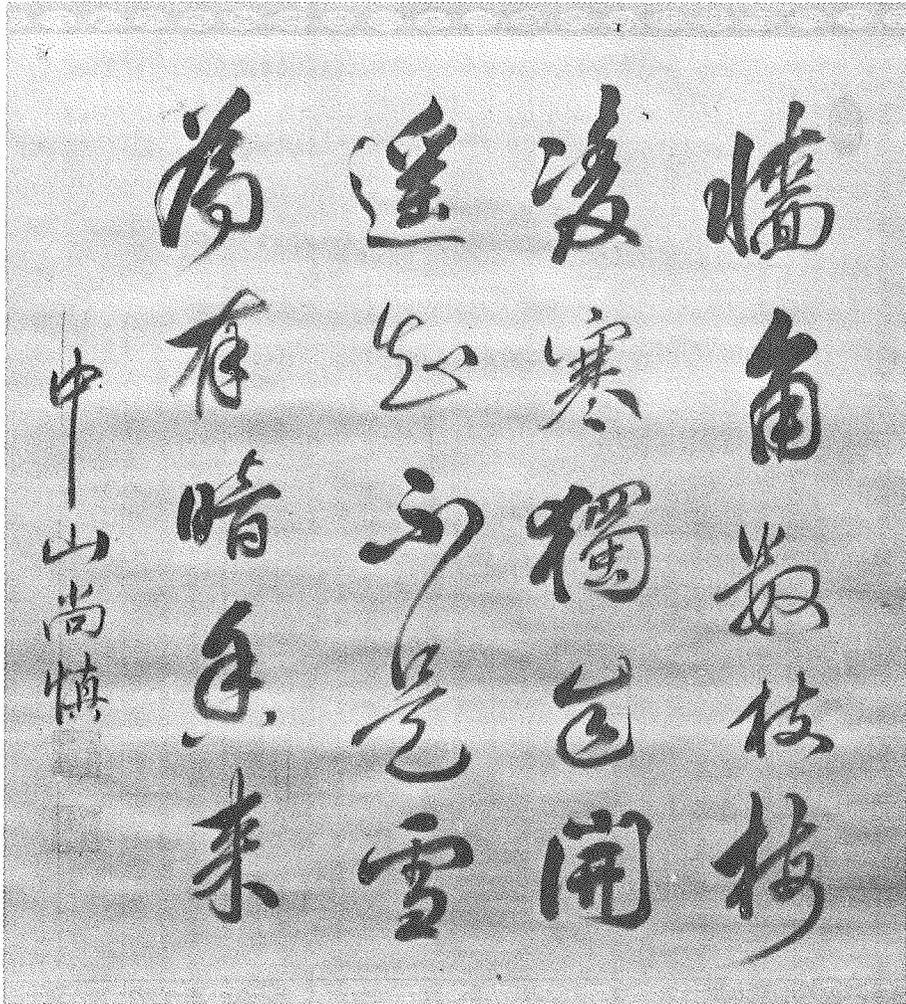


# 沖繩県立博物館年報

No. 15



1982

沖繩県立博物館

# 目 次

序	館長 大城 徳次郎
沿 革	( 1 )
日誌 (抄)	( 2 )
予算関係資料	( 6 )
施設・設備	( 9 )
組 織	(10)
事 業	(12)
1. 展 示	(14)
2. 調査・研究活動	(23)
3. 資料収集活動	(25)
4. 資料整理	(25)
5. 資料保存・修理	(26)
6. 教育普及活動	(26)
入館者数	(32)
資 料	(37)
1. 昭和56年度収蔵資料	(37)
2. 収蔵資料現在高	(37)
3. 新収蔵資料内容	(38)
4. 新収蔵図書	(41)
5. 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表	(53)
当館関係条例規則 (抄)	(54)

※表紙写真 玉川王子尚慎の書

## 序

昭和54年、55年と2ヶ年の継続事業として推進してきた、空調等総替え工事が完了し博物館活動は年次向上発展をとげましたが、施設設備の充実が追いつけず大巾な遅れを痛感していたので、昭和57年度予算要求に施設の整備（講堂の改修）を強く要請してきましたが認められず遺憾に堪えない。沖縄の自然と文化の資料を保管、展示する唯一の県立博物館として機能を果して行くには今後とも施設、設備の整備に強力に推進して行きたいと思えます。

収集面では、寄贈品として国外から、永年沖縄研究に関わって来られた、ハワイのジョージ・H・ケアー博士の「沖縄関係資料」をはじめとして、ソ連科学アカデミーから寄せられた「マンモスの体毛」、それから南米産大蛇「アナコンダの皮」、中国ウイグル自治区の楽器「ルワーブ」、インドネシアの民族資料などが寄せられ、又県内からは、2,200点にもものぼる貝類標本や、世界的にも珍しい「キクザトアオヘビ」をはじめとして貴重な資料がたくさん寄せられています。

購入品では、宮古上布着物、琉球漆器、玉川王子書軸、読谷山花織衣裳、謝花雲石書など貴重な資料を受け入れることができました。また従来の資料の修理に加えて凡そ2万年前の、リュウキュウジカと、リュウキュウムカシキョンの骨格復原もできあがりました。

それから、特別展として、「沖縄の美—日本民芸館蔵」ならびに「戦前の沖縄の写真—昭和10年代の風物」を、沖縄の優れた民芸品が40年振りに里帰りして開設され画期的な意義深い展示会であり、しかも何の事故もなく無事、盛大に終了することができましたことは、主催者側、後援並びに協力機関団体等のご支援の賜物だと心から感謝をしております。

なお、56年度は第3回目の移動博物館を粟国村で、第4回目は渡名喜村で開催して両村民から喜ばれており、この移動博物館は、当館を利用する機会の少ない離島や避地に住む人々のために、より充実した内容へと今後とも努力をして県内外の皆様から親しまれる博物館経営をしたいと思えますので今後とも尚お一層のご助言とご協力をお願い申し上げます。

昭和57年6月

沖縄県立博物館長 大城 徳次郎

## 沿革

- 1946年4月 (昭和21年) 沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」(当館の前身)と改称。  
館長大嶺薫就任(1953年5月退職)
- 1947年12月 (昭和22年) 首里市の沖縄郷土博物館は沖縄民政府に移管され「首里博物館」と改称。  
館長豊平良顕就任(1948年3月退職)
- 1948年8月 館長原田貞吉就任
- 1953年5月 (昭和28年) 首里当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。東恩納博物館と合併し規模拡大する。
- 1955年5月 館長原田貞吉退職。
- 1955年8月 館長山里永吉就任
- 1955年9月 首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称。
- 1958年8月 館長山里永吉退職
- 1958年9月 館長金城増太郎就任
- 1961年12月 館長金城増太郎退職
- 1962年2月 館長大城知善就任
- 1965年 首里大中町尚家跡土地購入(195,751ドル)
- 1966年10月 (昭和41年) 米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建(3,294m<sup>2</sup>,1階356,000ドル)の新館が落成移転。
- 1966年12月 中央教育委員会規則第58号「琉球政府立博物館管理規則」「琉球政府立博物館施設使用規則」、同59号で「琉球政府立博物館の職員の勤務時間及び勤務時間の割振りに関する規則」制定、入館料大人10仙,学生5仙,児童生徒2仙,団体2割引徴収決まる。
- 1967年12月 「琉球政府立博物館運営協議会規則」制定。
- 1969年3月 「琉球政府立博物館館報」創刊。
- 1969年11月 館長大城知善勸奨退職
- 1969年12月 館長外間正幸就任
- 1972年5月 (昭和47年) 日本復帰に伴い、館名を「沖縄県立博物館」と改称。
- 1973年2月 (昭和48年) 国庫補助を得て1,571m<sup>2</sup>(102,484千円のうち25,621千円国庫)2階を増築。展示室が3室ふえる。
- 1976年4月 創立30周年記念事業挙行。
- 1979年4月 (昭和54年) 入館料一般50円を100円に、大学・高校生を50円に、中小学生10円を20円に改正。また、特別企画展の入館料は500円を超えない範囲内でその都度決める。
- 1979年8~12月 空調・防災総替え工事2か年計画で着工、本年度は展示室のみ完了。
- 1980年1月12~2月3日 (昭和55年) 「救世熱海美術館名品展」ならびに「沖縄県立博物館名品展」開催、会期中76,000余名観覧。
- 1980年2月 第1回移動博物館、久米島具志川村、仲里村、両教委と共催。
- 1980年3月 「沖縄県立博物館総合調査報告書一栗国島(あぐにじま)」創刊。
- 1980年10月 1979年度より2か年計画で始めた空調等総替え工事完了。
- 1980年5月16~18日 第2回移動博物館(今帰仁村、同教委と共催)会場 今帰仁村中央公民館

1980年11月1～30日 「失われた生物たち—大恐竜展」琉球新報、日本対外文化協会ソ連科学アカデミーと供催。会期中166,445名観覧。

1981年3月30日 当館、博物館法に基づき登録される。

1981年4月 1日付で館長外間正幸勸奨退職(昭和56年) 同日館長大城徳次郎就任。

1981年5月15～17日 第3回移動博物館(栗国村、同教委と共催)  
会場 栗国村公民館

1981年5月22～24日 第4回移動博物館(渡名喜村、同教委と共催)  
会場 渡名喜村中央公民館

1981年10月17～11月15日 「沖縄の美—日本民芸館蔵—」展、併催「戦前の沖縄写真」展、沖縄タイムス、日本民芸館と共催、会期中58,808名観覧。

〔付〕

1936年7月 沖縄県教育会附設として「沖縄郷土博物館」首里城内北殿を使用して開館される。貴重な文化財が数千点収蔵されていた。

1945年3～5月 沖縄戦で「沖縄郷土博物館」全焼。

1945年8月 米国海軍軍政府により残欠文化財が収集され、石川市東恩納に「沖縄陳列館」設立される。

1946年3月 首里城周辺の廃墟から残欠文化財の収集活動が行われ、沖縄郷土博物館が設立される。

## 日誌(抄)

(昭和56年4月1日～57年3月31日)

4月1日 外間正幸館長勸奨退職、大城徳次郎館長就任

3 琉染展オープン(5日まで)

4 名渡山愛文氏より喜納焼ガメ寄贈さる。

5 等々力孝志氏より紅型下絵寄贈さる。

10 新旧館長歓送迎会(於沖縄貯金保険会館)

11 ①「南蛮」中川伊作陶芸展オープン(19日まで)

②玉泉洞社長大城宗憲氏よりカラーテレビ1台寄贈される。

12 沖縄民俗研究会

13 表千家訪問団700名余見学。

14 西原町小波津出身与那嶺盛吉氏(在ブラジル)より厨子甕10基寄贈さる。

15 県博友の会役員会

17 飛鳥田社会党委員長来館

21 琉浦書道会展オープン(25日まで)

22 ①倉庫工事開始(23日まで)

②渡名喜村教育長桃原茂一氏来館。

24 中川伊作氏より市来式を模した土器一点寄贈さる。

25 ①文化講座「菌の話」講師中村直氏琉大助教授。

②昆虫同好会総会

27 長谷川善和氏当館蔵化石鹿復元事務うち合わせのため来館。

30 高倉修理のため読谷村より作業人来館(5月8日補修完了)

5月1日 柳悦孝女子美術大学学長、柚木沙弥郎同教授「沖縄の美—日本民芸館蔵—」展のうち合せのため来館。

- 2 沖縄美術家連盟総会（於ホール）
- 10 福岡八幡工業高校団体見学。
- 12 ①館長熊本、沖縄県連絡協議会準備会  
に出席。  
②新収蔵品展オープン（31日まで）
- 13 ①館長九博協理事会、総会へ出席のため福岡県へ（14日まで）  
②熊本沖縄県連絡会議（副館長出席）
- 15 粟国村で「第3回移動博物館」オープン（17日まで）
- 16 同村で移動文化講座①「民話の話」遠藤庄治氏（沖国大教授、②「渡名喜島の生い立ち」講師大城逸朗（当館主任学芸員）
- 17 沖縄民俗研究会。
- 5月20日 中華人民共和国駐日本国大使館一等書記官、黄 幸氏、同参事官才 更夫氏来館。
- 22 ①海上自衛隊幹部学校学生及び教官60名余来館。  
②渡名喜村で第4回移動博物館オープン（24日まで）
- 23 琉球大学学術文化講演会（於ホール）
- 29 仲嶺俊子氏より寄贈された貝類標本約2,000点余の記者会見。
- 6月1日 県立博物館協議会員依頼される。任期2か年間、会長安次富長昭氏、副会長福地広昭氏決まる。
- 2 NHK「ふるさと証言」豊平良顕元沖縄郷土博物館長の取材で第一展示室、地下収蔵庫の当時の収拾品を撮影。
- 10 金城文子女史仏像1点、水ガメ1点、寄贈される。
- 11 ①復元化石鹿組立のため搬出。  
②館長全国文化行政会議へ出席（於自治会館ホール）
- 12 館長、副館長、渡名喜学芸員全国文化行政会議へ出席（於自治会館ホール）
- 14 ①海外青年の翼説明会（於ホール）  
②沖縄民俗研究会
- 15 金城祐一氏より厨子ガメ3基寄贈さる。
- 17 宮城健盛展オープン（26日まで）同展オープニングレセプション。
- 19 金城武三氏より「突棒船」の模型寄贈される。
- 25 寒川町1-17豊見城盛隆氏より「丁字風炉のフタ」1個5か年間寄託される。
- 26 ①Asean諸国記者団18名来館。  
②沖縄県高等学校英語教育研究会昭和56年度定期総会（於ホール）
- 27 第86回文化講座「沖縄の系図について」講師田名直之氏（那覇市史編集室主事）
- 30 ①首里城復元期成会総会。  
②能勢孝二郎彫刻展オープン（7月5日まで）
- 7月7日 ガス燻蒸（8日まで）
- 9 当銘由金氏より南米産大蛇の蛇皮寄贈される。
- 15 長崎県立美術博物館学芸課長谷口朝明氏、同主任学芸員下川達彌氏来館。
- 17 衆議院議員戸井田三郎氏来館。
- 18 首里高校進路指導（於ホール）
- 24 ①法政大学教授山本弘文氏来館。  
②ASEAN協会副館長アリフィンベイイ氏来館。 ②
- 25 文化講座「博物館で描こう」講師神山泰治氏（琉大助教授）
- 28 徳島県議会議員12名来館。
- 8月4日 第1展示室、第3展示室クローズ張替え、ならびに照明改修工事着工。
- 7 尚義清氏御夫妻来館。

- 8 ①両生爬虫類展オープン（30日まで）  
②友の会評議員会（於会議室）
- 9 沖縄民俗研究会
- 12 シーサーまつり実行委員会よりビデオテープ（15分もの）1本寄贈さる。
- 21 柳悦孝女子美学長来館（安次富長昭当館協議会長案内）
- 22 文化講座「ハブの話」講師吉田朝啓氏（県立公害衛生研究所長）
- 23 琉球漆器研究会（於会議室）
- 24 ジョージ・H・カー博士寄贈図書、写真等の贈呈式。
- 27 真栄堂又吉真栄氏より胡弓1点寄贈される。
- 28 館名碑とりつけ工事実施。
- 9月3日 沖博協理事会。
- 5 謝花雲石展オープン（24日まで）テープカットをおこなう。
- 6 ニービヌフニで出来た水槽寄贈される。
- 8 山形県教委長他7人来館。
- 9 ノルーウェイ、オスロ民族学博物館学芸員、社会人類学助教授ARN ROK-KUM氏来館（三木健氏の案内で）
- 13 沖縄民俗研究会（於会議室）
- 16 キクザトアオヘビの記者会見。
- 17 「沖縄の美…」展後援、協力団体への説明会。
- 20 ①「北部史跡めぐり」講師名嘉正八郎（副館長）、同知念勇（学芸員）。  
②謝花雲石子孫一行8名来館見学。
- 21 熊本……展のためのうち合せで熊本県美学芸課長坂田氏、同美術専門員平岡氏、熊本市博物館学芸員富田氏来館。
- 27 ロータリー国際会長S・E・マキャフリー氏来館（宮里振彦氏の案内で）。
- 10月8日 長崎県美術博物館へ出品物搬出。
- 16 「沖縄の美—日本民芸館蔵—」展併催「戦前の写真展」開会式、レセプション。
- 17 同展オープン（11月15日まで）。
- 18 特別講演会「民芸の思想—展示品にふれて—」講師水尾比呂志氏（武蔵野美術大学教授）、「これからの工芸デザイン」講師柳宗理氏（日本民芸館長）。
- 25 岡山県知事来館。
- 28 沖博協理事会ならびに総会（於会議室、ホール）
- 11月1日 日本民芸協会全国臨時沖縄大会。
- 3 特別展「沖縄の美……」展、文化の日につき、すべて100円割引。
- 4 ①会計指導（伊芸主査、上原主事来館）  
②那覇地方裁判所長石田穰一氏来館。
- 5 三重県知事田川亮三氏来館。
- 13 比嘉副知事来館。
- 15 ①特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵—」展、併催「戦前の沖縄写真」展無事終了、入観者合計58,803人。  
②県博協議会。  
③同展慰労会。
- 18 「沖縄の美……」展後援協力団体へ報告、御礼の会。
- 19 長崎県美博学芸課長、学芸員越中来館。
- 20 長崎県美博貸出資料返品。
- 21 くんじょう投票（23日まで）
- 12月1日 ①岐阜県議会議員18名来館。  
②西村貞雄彫刻展オープン（6日まで）
- 3 公立学校共済組合理事長来館。
- 6 彦根市長井伊直愛氏御夫妻来館。
- 9 元大蔵省事務次官田中敬氏沖縄総合事務局財務部長岡本隆氏の案内で来館。

- 12 「沖縄の美……」展、今年教育関係  
十大ニュースに入る。
- 13 沖縄民俗研究会。
- 18 博物館友の会。
- 19 文化講座、①「冊封使の話」講師島尻  
勝太郎氏（沖縄大学教授）、②特別文化  
講座「沖縄の慶長検地について」講師  
山本弘文氏（法政大学教授）。
- 22 日本民芸館沖縄分館「収蔵および展示  
館」建設についての発起人会。
- 57年  
1月8日 修養団青年奉仕「沖縄キャラバン」来  
館、記念植樹
- 10 沖縄民俗研究会。
- 12 ①窪徳忠氏（南島史学会長）来館。  
②県内扁額、聯等遺品調査（文化課担  
当上江洲敏夫氏）。主任調査員島尻勝太  
郎氏2人来館。
- 19 徳島県教育長藤野井親仁氏他2人来館。
- 21 山形県副知事荒木修一氏他2人来館。
- 22 ①多良間村教育長福嶺松生氏他2人来  
館。  
②不発弾処理のため3時45分閉館。
- 23 ①通産省事務次官藤原一郎氏来館（県  
労働部長の案内で）。  
②博物館友の会懇親会。  
③第90回文化講座「沖縄の音楽—特に  
中国音楽とのかかわりについて—」講  
師喜名盛昭氏（沖縄水産高校教諭）
- 28 栃木県議会（文教委員）議員鈴木重幸  
氏、栃木健氏来館。
- 29 寒川にて不発弾処理のため2時に閉館。
- 2月3日 沖博協理事会。
- 6 宝永堂仲村渠常博氏より香炉他3点寄  
贈さる。
- 7 沖縄民俗研究会。
- 9 当真嗣起氏より厨子ガメ1点寄贈さる。
- 12 オーストラリア総領事J・J・ショー  
ト氏来館、北田実氏通訳。
- 13 平良専明氏より戦後資料寄贈さる。
- 18 奈良国立文化財研究所松沢亜生氏同土  
居氏来館。
- 23 慶応義塾大学文学部教授江坂輝彌氏、  
韓国釜山市東亜大学教授金東鎬氏来館。
- 24 駐日オーストラリア大使ジェームス・  
プリムソン卿来館。
- 26 沖博協研修会ならびに懇親会。
- 27 文化講座「久高の神々」講師比嘉康雄  
氏（写真家）
- 3月4日 国立歴史民俗博物館岡田助教授来館。
- 5 読売新聞西部本社へ民具貸出し「新し  
い農業水産博」のため7点。
- 10 九州歴史博物館亀井明德氏来館。
- 14 ①平良専明氏より陶磁器4点寄託され  
る（3か年間）  
②沖縄民俗研究会。
- 17 文部省社会教育課専門員加藤氏来館。
- 19 県立博物館協議会。
- 20 第93回博物館文化講座「今帰仁城跡」  
講師金武正紀氏（文化課主任専門員）。
- 23 インドネシア共和国駐日大使サイディ  
マン・スルヨハディプロジョ氏、同広  
報部ヘルマント・ハルソルマクソ氏来館。
- 27 ①駐日インド大使K・P・S・メン  
ン氏御夫妻来館。  
②石川市立歴史民俗資料館オープン、  
館長出席。
- 29 ①今後の常設展について小、中、高、  
大学の先生方と話し合い。  
②熊本県文化課長、同係長熊本、沖縄  
交流展のための当館視察。

予算関係資料 1981  
56年度博物館費(決算)

科目名	事項	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費 (合計)
(節) 報	酬	162,400	0	162,400
(節) 賃	金	2,076,400	1,472,600	3,549,000
(節) 報	償	416,000	559,000	975,000
(節) 旅	費	1,004,616	2,837,720	3,842,336
(細節)	費用弁償	86,300	1,152,200	1,238,500
(細節)	普通旅費	918,316	1,685,520	2,603,836
(節) 需	用	24,479,976	4,512,236	28,992,212
(細節)	消耗品費	808,160	517,540	1,325,700
(細節)	燃料費	26,840	0	26,840
(細節)	食糧費	86,750	531,810	618,560
(細節)	印刷製本費	3,345,474	3,451,406	6,796,880
(細節)	光熱水費	18,710,152	0	18,710,152
(細節)	修繕料	1,502,600	0	1,502,600
(細節)	医薬材料費	0	11,480	11,480
(節) 役	務	1,535,621	9,916,170	11,451,791
(細節)	通信運搬費	651,270	6,053,238	6,704,508
(細節)	手数料	884,351	0	884,351
(細節)	広告料	0	3,000,000	3,000,000
(細節)	保険料	0	862,932	862,932
(節) 委	託	10,876,000	13,773,897	24,649,897
(節) 使用料及び賃借料		91,200	4,000,000	4,091,200
(節) 工事請負費		19,565,000	0	19,565,000
(節) 備品購入費		45,884,450	6,110,050	51,994,500
(節) 負担金補助及交付金		54,000	0	54,000
合	計	106,145,663	43,181,673	149,327,336

56年度歳入状況

科目名	内訳	常設展	特別展「沖縄の美」
博物館使用料		6,556,046	20,545,100
建物使用料		25,940	
合	計	6,581,986	20,545,100

予算の推移

年度別	定員	予算額	内 訳		
			人件費	運営費	文化財購入費
1952	7	4,333 \$	3,143	18	1,172
1953	7	6,785	4,534	584	1,667
1954	7	6,246	3,221	684	2,341
1955	7	5,116	3,094	355	1,667
1956	7	7,079	3,340	1,420	2,319
1957	7	10,851	3,694	686	6,471
1958	7	12,070	4,098	1,639	6,333
1959	7	11,603	4,486	890	6,225
1960	7	12,029	5,090	939	6,000
1961	7	10,005	5,309	1,476	3,220
1962	7	8,339	6,194	1,145	1,000
1963	7	10,420	8,132	1,088	1,200
1964	7	11,584	8,804	930	1,850
1965	7	12,265	9,702	911	1,652
1966	7	13,769	11,267	1,152	1,350

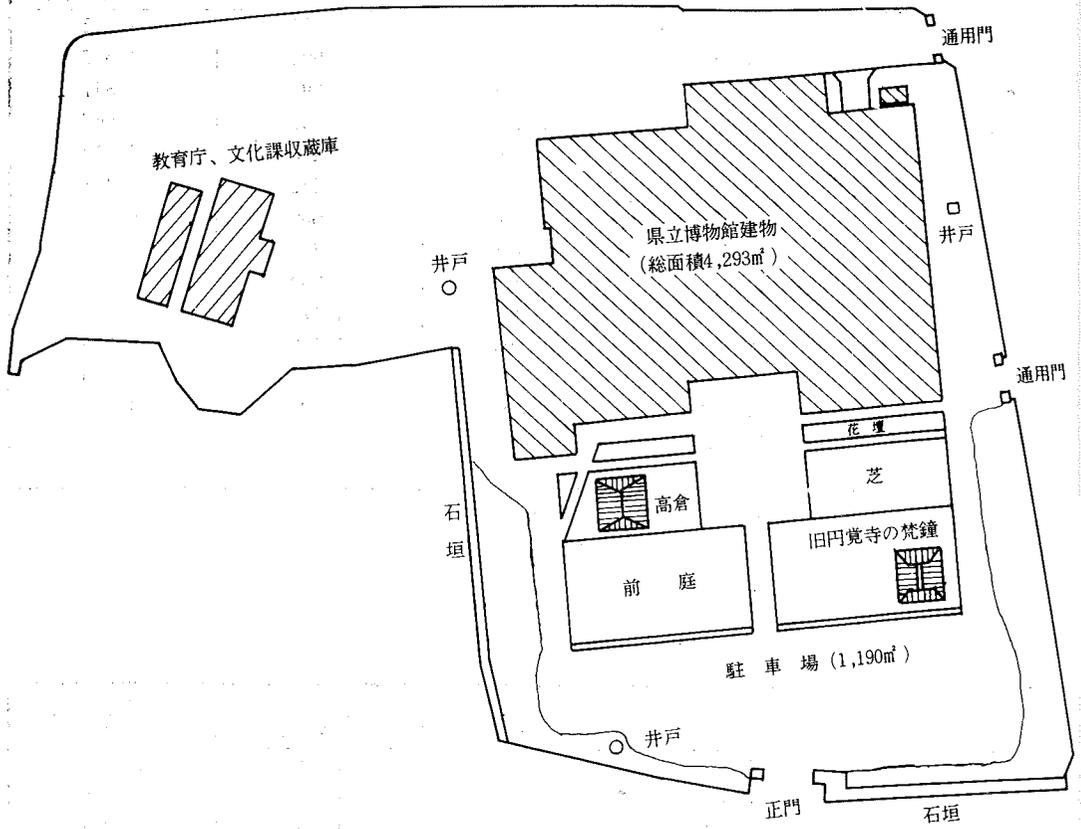
註 1959年度以前の分はB円に弗に換算したもの 1弗=120円

年 度	定員	予算額	内 容		
			運営費	資料購入費	事業費
1967	7	41,451 \$	18,683	1,500	21,268
1968	11	62,463	29,645	1,500	31,490
1969	11	45,419	29,473	1,500	4,620
1970	11	67,961	41,761	1,200	25,000
1971	11	49,834	42,431	1,193	6,210
1972	11	48,843	45,723	810	2,310
1973	12	19,362 円	10,453	6,640	2,269

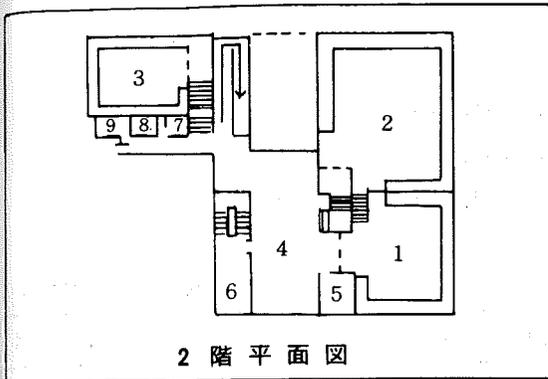
単位 千円

年 度	定員	博物館費	博物館管理運営費	博物館特別事業費	備 考
1978 (昭和53年)	12	27,907	27,907		
	12	94,872	94,872		
1979	12	115,872	115,872		
	12	179,702	123,503	60,399	55年度より特別事業費の事項を鑑く 工事請負費 47,218千円本庁執行
1980	12	138,959	60,897	78,061	
	12	143,788	98,602	45,186	
1981	12	149,327	106,097	43,230	

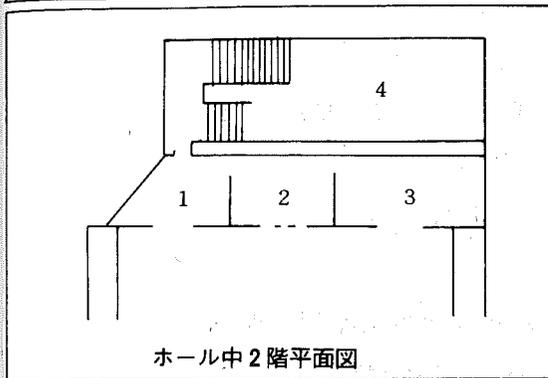
施設配置図



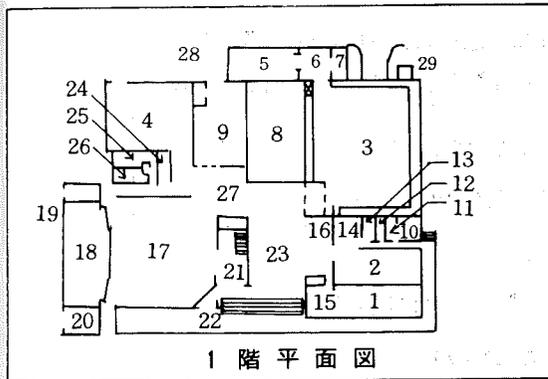
# 施設・設備



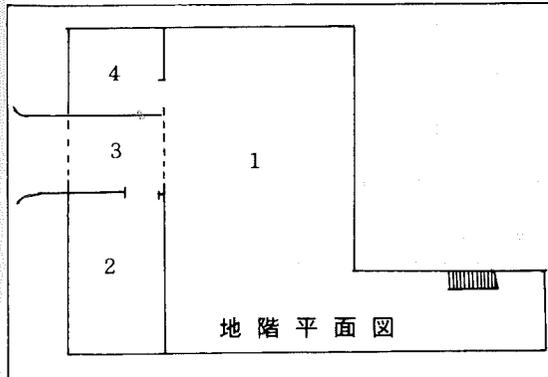
2階平面図



ホール中2階平面図



1階平面図



地階平面図

## 概要

敷地面積	11,246㎡
建物面積	2,893 2階 1,571 地階401
展示面積	計 4,865
ロビー面積	1階 632 2階 870
収蔵庫面積	計 1,502
駐車場面積	513
庭園面積	507
冷房機	1,190
空調機	1,612

(チラー) 圧縮機 9kw×4台×2機  
 冷却能力 150,000 kcal / H×2機  
 第1室 2.2kw  
 第2室 1.5kw  
 第3, 4室 5.5kw  
 第5室 0.75kw  
 1階収蔵庫、1階ショーケース 2.2kw  
 2階ショーケース 1.5kw×2機  
 地下収蔵庫 2.2kw  
 漆器収蔵庫 1.5kw  
 事務室 2.2kw  
 館長室 2.3kw  
 講堂 5.5kw

## 変電室

電灯	1φ 3W	30KVVA×1機
電灯・動力	3φ 4W	100KVVA×1機
動力	3φ 3W	200KVVA×1機
動力	3φ 3W	250KVVA×1機
		335kw

## 契約電力

講堂	客席数	1階 434席
		2階 196席
		計 630席
	デスク型アンブ	1台
	マイク	3台

## 室名と面積

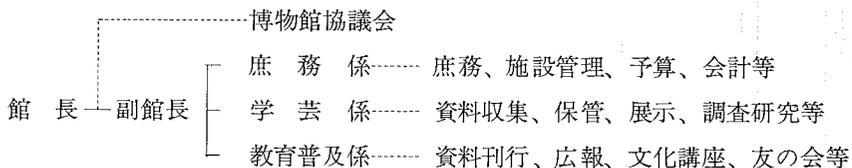
2階	室番号	室名	面積	㎡
1	1	(第3室) 美術工芸展示室	265	
2	2	(第4室) 民俗展示室	436	
3	3	(第2室) 陶磁器展示室	170	
4	4	ロビー	257	
5	5	空調室	29	
6	6	ホール控室	59	
7	7	化粧室(女)	6	
8	8	化粧室(男)	11	
9	9	空調室	12	
ホール中2階	1	調光室	17	
	2	映写室	19	
	3	音響効果室	25	

1階	室番号	室名	面積	㎡
1	1	事務室	115	
2	2	資料室	96	
3	3	(第1室) 総合展示室	462	
4	4	(第5室) 特別展示室	170	
5	5	収蔵庫	120	
6	6	荷解場	32	
7	7	漆器収蔵庫	11	
8	8	中庭	152	
9	9	房子襲収蔵庫	91	
10	10	宿直室	11	
11	11	湯沸室	8	
12	12	化粧室(男)	7	
13	13	化粧室(女)	9	
14	14	図書室	28	
15	15	館長室兼応接室	28	
16	16	模型コーナー(首里城)	18	
17	17	講堂(客席)	428	
18	18	ステージ	116	
19	19	控室	19	
20	20	控室	32	
21	21	講堂出入口	37	
22	22	守衛室	14	
23	23	ロビー	256	
24	24	倉庫	14	
25	25	化粧室(女)	21	
26	26	化粧室(男)	17	
27	27	売店	10	
28	28	空調室	11	
29	29	ポンプ室	5	

地階	室番号	室名	面積	㎡
1	1	収蔵庫	285	
2	2	冷房機室	58	
3	3	荷解場	28	
4	4	変電室	30	

# 組 織

## (1) 機 構



## (2) 職員構成

1982年5月1日現在

職 員	氏 名	担 当 業 務	備 考
館 長	大 城 徳次郎	博物館業務の総理に関すること。	
副 館 長	名 嘉 正八郎	館長補佐、庶務、施設管理、学芸、教育普及との調整に関すること。	
庶 務 係 長	幸 地 右 雅	庶務、施設管理、予算、事業に関すること。	
主 事	村 山 佐 代	庶務、歳入、事務に関すること。	
主 事	玉 村 良 子	予算決算、会計事務に関すること。	
技 師	下 地 栄	施設管理に関すること。	
学 芸 係 長	上江洲 均	学芸業務の統轄、民俗、書跡、資料受入に関すること。	
主任学芸員	知 念 勇	考古、写真資料、展示業務、沖博協等に関すること。	
学 芸 員	上江洲 敏 夫	歴史資料ならびに図書受入、写真撮影等に関すること。	
教育普及係長	宮 城 篤 正	教育普及業務の統轄ならびに絵画、陶磁器に関すること。	
主任学芸員	大 城 逸 朗	自然系地質、文化講座、友の会に関すること。	
充 指 導 主 事	当 山 昌 直	自然系、生物、移動博等に関すること。	
教育普及補助員	与那覇 邦 子	解説員（委託業務）	
受 付	西 平 節 子	受付一階ロビー監視業務に関すること（委託業務）	
監 視	東 美 智 子	第一展示室（委託業務）	
”	西 平 勝 子	第三展示室（ ” ）	
”	本 部 光 子	第四展示室（ ” ）	
”	照 屋 カ ツ	第五展示室（ ” ）	
清 掃 業 務	金 城 ヨ シ	館内の清掃業務）（ ” ）	
宿 直	玉 城 正 篤	宿直業務（ ” ）	

(3) 人事異動

学芸員	渡名喜 明	県文化課専門員へ	57. 4. 1付
用務員	比嘉 ミ ツ	奥武山競技場へ	57. 4. 1付

主 事	上江洲 敏 夫	県文化課より	57. 4. 1付
庶務係長	幸地 右 雅	奥武山競技場より	57. 4. 1付

(4) 沖縄県立博物館協議会 (57. 4. 1 現在)

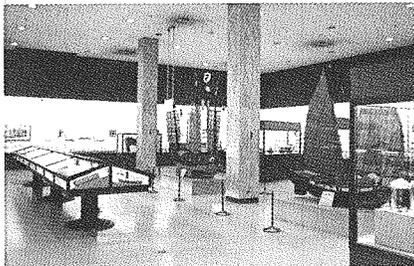
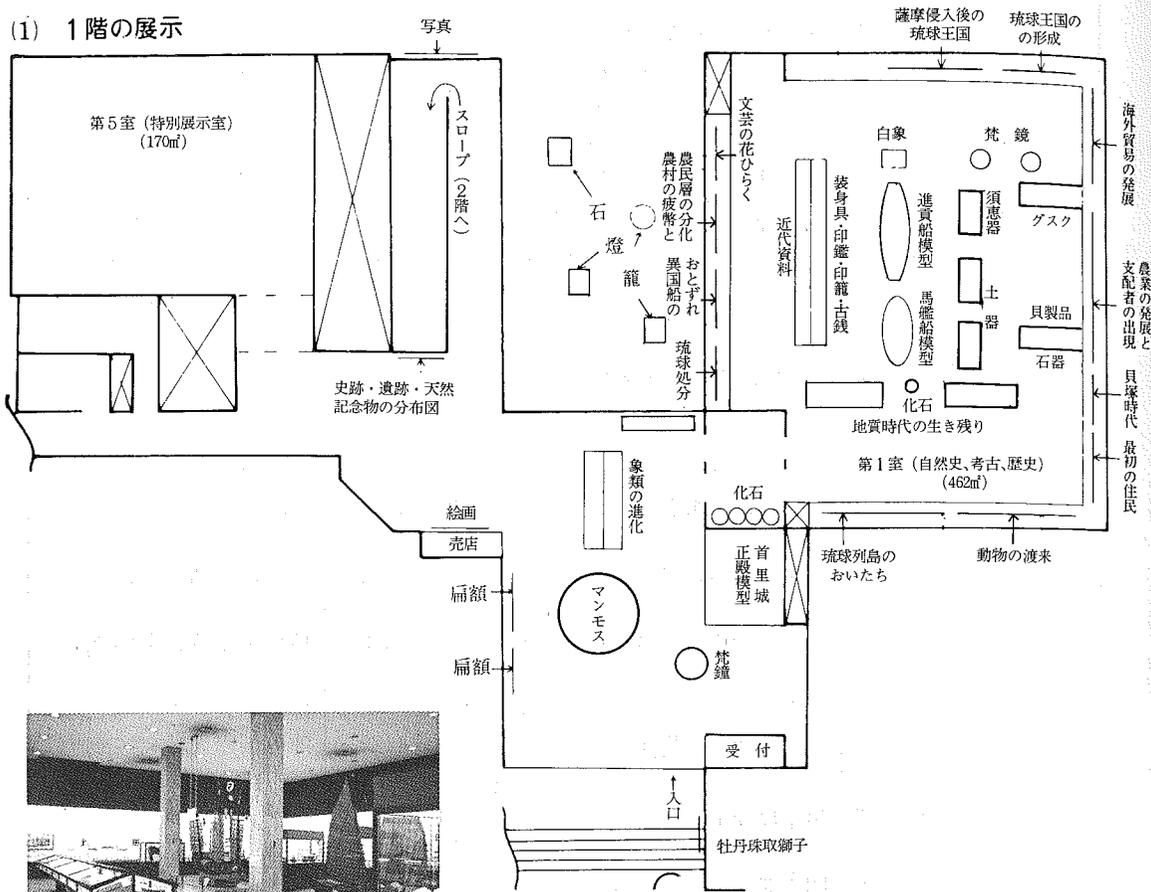
委員名簿

学識 経 験 者	野原 朝 秀	南風原町新川38	89-4789	琉球大学教育学部教授
	外間 政 彰	那覇市松尾 2-2-6	63-1955	那覇市立図書館長
	安次富 長 昭 (会 長)	那覇市石嶺 3-117-10	85-1653	琉球大学教育学部教授
	高宮 廣 衛	那覇市寒川 1-23	34-3222	沖縄国際大学文学部教授
学校教育 関係者	真栄田 邦 男	那覇市識名667-4	34-5535	首里高等学校長
	福地 曠 昭 (副会長)	那覇市久茂地 3-9-12 (沖縄教職員組合)	67-0161	沖縄県教職員組合副委員長
社会教育 関係者	宮 里 悦	那覇市大道14-10 (婦連)	84-5333	沖縄婦人連合会会長
	岸 本 利 実	宜野湾市字野嵩135	098892-2556	元県議会文教厚生委員会 委員長
	新 川 明	那覇市久茂地 2-2-2 (沖縄タイムス)	67-3111	沖縄タイムス社編集局長
	新 田 卓 磨	那覇市久米 2-23-10	61-4839	元琉球新報社編集局長

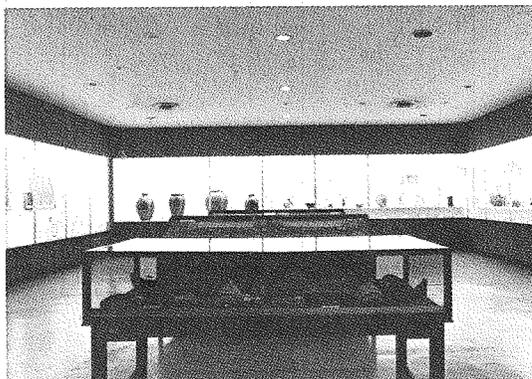
# 事業

## 展示 (常設展示)

### (1) 1階の展示



第 1 室

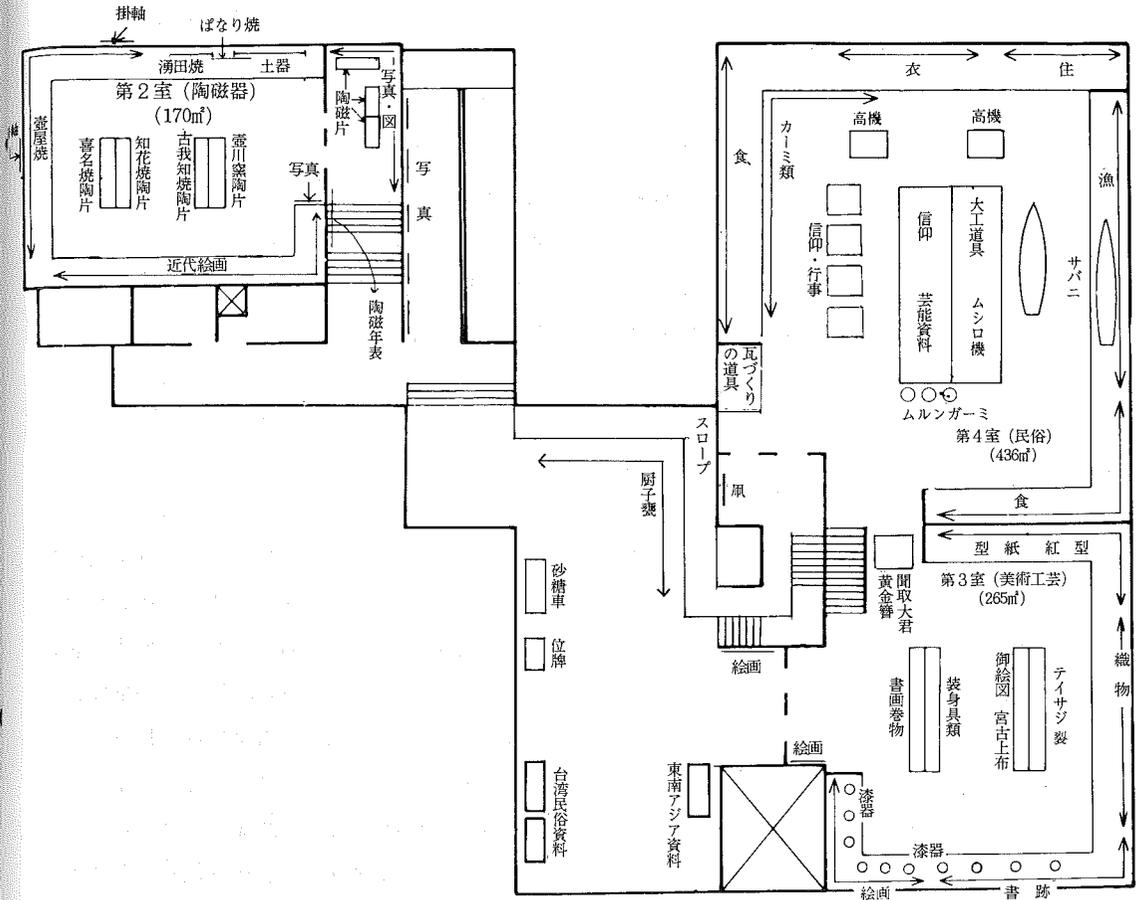


第 2 室



第 3 室

(2) 2階の展示 (常設展示)



第 4 室



第 5 室

海外貿易の発展  
農業の発展と  
支配者の出現  
貝塚時代  
最初の住民

## 展 示

### (1) 概 略

展示室は5室あり、そのうち4室が常設展示室で、残り1室が特別（企画）展示室となっている。第1室（1階）は「歴史」（自然史・考古・歴史）で、常設展示全体の概論的内容になる。第2室（2階）は「美術工芸Ⅰ」（陶磁器・近代絵画）、第3室（2階）「美術工芸Ⅱ」（書跡・絵画・漆器・染織等）、第4室（2階）「民俗」となっている。第5室（1階）が特別（企画）展示室である。

第1室は「琉球列島のおいたち」から始まるが、これに続けて、沖縄の地史との関連で生物地理的な視点から、イリオモテヤマネコの骨格標本、ハブ類、リュウキュウイノシシなどの新しい資料を展示した。なお、常設展示の導入部たる1階ロビーの展示に、昭和55年度に購入したマンモスの実物大レプリカを加えたのも特筆すべきである。

一方、第1室の歴史展示においては、量的にはわずかながら、近代・戦争・戦後資料を加えた。明治時代の地理教科書・移民資料・教育および交通関係資料に続いて、日露戦争から今次大戦に至る経緯を新聞号外で示した。さらに、大正・昭和期における県内の出版文化活動を刊行物で紹介、続いて配給切符など戦時中の国民生活を示す資料、さらに鉄兜・署名入り日の丸などの展示によって戦時体制の一端をうかがえるようにした。戦後資料としては終戦直後の紙幣、米軍統治下の行政府の公印を展示した。質量ともに必ずしも豊かとはいえないが、近代・現代展示の足がかりとしたい。

第4室「民俗」に新たに芸能コーナーを設け、古典舞踊・雑踊りの衣裳・小道具類の一部を展示した。信仰関係資料も補充してある。

常設展示室の壁面および照明の改修工事を昨年度に引き続いて実施、第1室、第3室が終了した。照明はいずれも調光可能な間接照明となっている。

当館主催の企画展は「新収蔵品展」（昭和56年5月12日～31日、第5室）、「沖縄群島の両生爬虫類展」（8月8日～30日 第5室）、「謝花雲石展」（9月5日～10月7日 第5室）で、特別展が日本民芸館・沖縄タイムス社共催による「沖縄の美—日本民芸館蔵」（第1室、第2室、第3室）である。この特別展と併催で坂元万七氏撮影写真による「戦前の沖縄写真展」を実施（第5室）、いずれも好評を博した。

常設展の改革は当館における焦眉の課題である。昨年度3月末日に開かれた常設展検討委においては、基本的かつ重要な問題が提起された。自然史展示に独立した部屋をとという要求、常設展全体のストーリーを明確にし、その展開に山と谷をつくるべきこと、関連分野・他分野との有機的関連をより密にすべきこと、日本・アジア・世界を視野に入れて沖縄をとらえること、学校教育との結びつきをより重視すべきこと。さらにディスプレイについては、時期区分の明瞭化、解説様式の統一、導線・照明の工夫など、いずれも常設展の現状とそれに結びつく教育普及活動を根本から問い直すものであった。

第3回常設展検討委は昭和57年3月に開かれ、57年度以降、各分野別、および教育、ディスプレイ分野による小検討委を開いて、内容を深めるべきだとする提案がなされた。

(2) 特別展

○ 新収蔵品展

会期 昭和56年 5月12日(火)～31日(日)

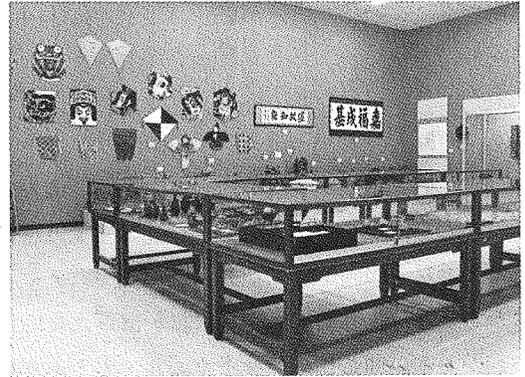
会場 特別展示室

昭和55年度に購入し、寄贈を受け、または収集した資料を紹介する特別展である。同年度は購入美術工芸81に自然843の合計924点、寄贈444点、収集8点、移管1点で、合計1377点である。購入の分類別では、自然の843点を筆頭に書跡の47点、染織の19点、以下漆器7点、陶磁器5点、絵画3点の順である。寄贈では、民俗に続いて貨幣・書跡の各80点が多い。

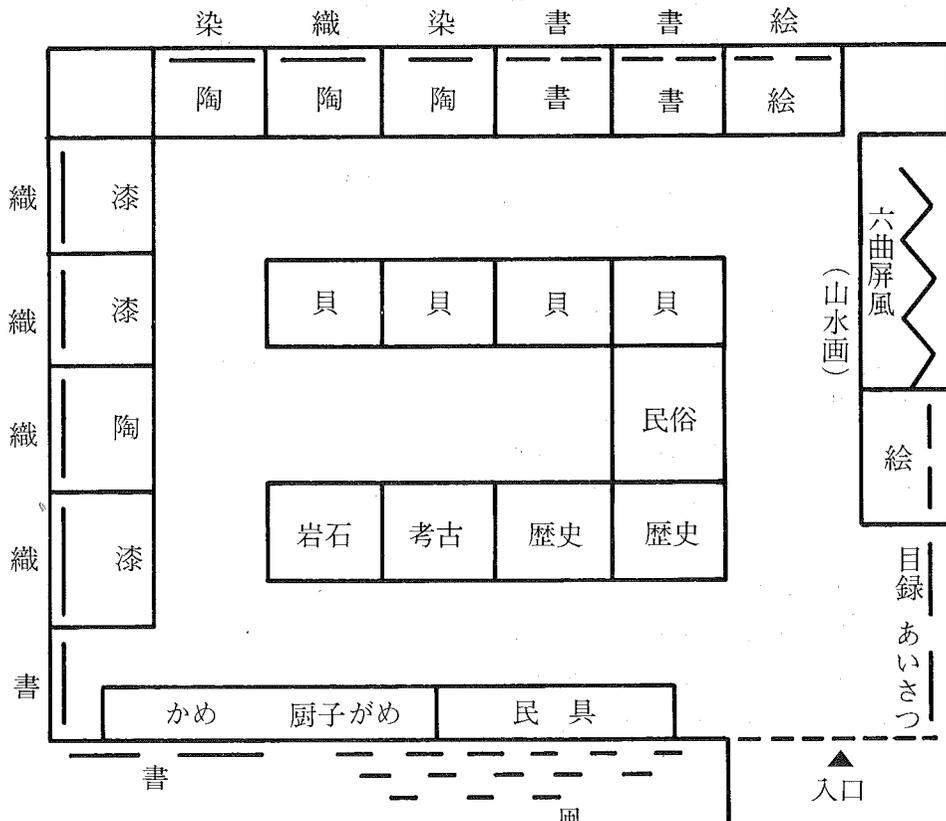
購入品で目立つのは、毛長禧「花鳥図」、長嶺宗恭「芭蕉の図」、謝花雲石書43点、「赤絵魚文皿」、裂織・刺子類16点、朱漆沈金牡丹巴紋食籠、朱漆山人人物箔絵湯庫、黒漆楼閣人物螺鈿中央卓、恐竜レプリカ、貝類標本などである。

寄贈品では、南画家飯田満佐子氏より自作の「六曲屏風雪景山水図」をはじめ、郷土出身の南画家池原清子氏の作品や謝花雲石愛用の毛筆類、100点を越す厨子がめ、その他多くの資料が寄せられた。

「新収蔵品展」では、これらの資料の大半を展示公開した。



展示場風景



## ○ 沖縄群島の両生爬虫類

会期：昭和56年8月8日(土)～8月30日(日)

会場：特別展示室

沖縄群島は、30余の島々からなり、そこには、27属37種(亜種を含む)の両生爬虫類が分布しており、そのほとんどが琉球列島にしか分布していない固有の種類である。また、イボイモリ・イシカワガエル・ホルストガエル・クロイワトカゲモドキ・マダラトカゲモドキ・バーバートカゲ・ヘリグロヒメトカゲ・ヒメハブ・リュウキュウヤマガメなど地質時代の生き残り(遺存的な種)として、島のおいたちや生物進化の証拠ともなるような貴重な動物も少なくない。また、これらの両生爬虫類には、シイ・タブなどからなる原生林の自然環境にしか棲みえない種類がある。即ち、ハナサキガエル・ナミエガエル・イシカワガエル・ホルストガエル・バーバートカゲなどがそうである。これらは、沖縄島北部山岳地帯でしかみられない。しかし、これらの動物の最後のとりでともいえる北部の山岳地でも、伐採作業が開発の名のもとにすすめられている。このままでは、生息地は減ることはあっても決して増えることはない。それは絶滅の危険を意味するものである。そこで、普段人目につくことが少ないこれらの両生爬虫類を紹介し、認識を深める意味で特別展を催した。

この特別展期間中の8月22日(土)には、吉田朝啓氏(県立公害衛生研究所所長)による「ハブのはなし」と題する文化講座が行われた。人間とハブとのかかわりあいのなかからいろいろな問題点をわかりやすく説明した。

なお、この特別展を催すにあたり、下記の方々に協力していただいた。御芳名を記しお礼申しあげる。高良鉄夫(琉大名誉教授)・池原貞雄(琉大名誉教授)・宇都宮妙子(広大研究生)

大河内勇(農林省九州支場)・勝連盛輝(公害衛生研究所ハブ支所)・高橋寛(日本蛇族研究所沖縄支所)・大谷勉(沖縄こどもの国)・金城勇(琉大学生)・佐藤文保(琉大学生)・琉球大学農学部風樹館。

〈担当：当山昌直〉

### 主な展示品目録

1. 両生爬虫類液浸標本……………27属37種 ※
2. 〃 生態写真……………37点
3. 〃 分布図……………50点
4. 〃 生体標本……………8種類
5. 〃 説明、解説……………39枚
6. 実体顕微鏡観察標本……………1種類
7. 特別出展(アナコンダの皮)……1点

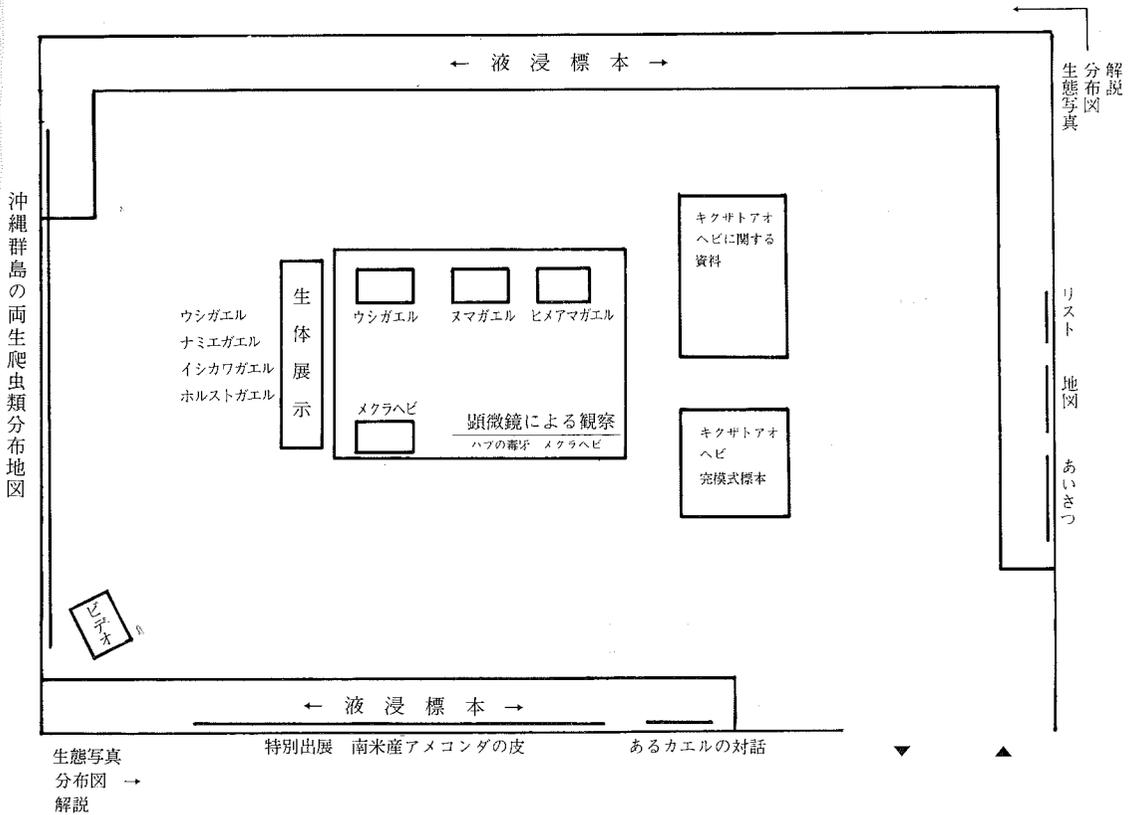
※イボイモリ・シリケンイモリ・ハロウェルアマガエル・ヒメアマガエル・リュウキュウアカガエル・ウシガエル・ヌマガエル・ハナサキガエル・ナミエガエル・イシカワガエル・ホルストガエル・ニホンカジカガエル・シロアゴガエル・オキナワアオガエル・ニホンヤモリ・ホオグロヤモリ・タシロヤモリ・オガサワラヤモリ・オンナダケヤモリ・クロイワトカゲモドキ・マダラトカゲモドキ・キノボリトカゲ・オキナワトカゲ・バーバートカゲ・ヘリグロヒメトカゲ・アオカナヘビ・メクラヘビ・アマミタカチホヘビ・ヒメヘビ・リュウキュウアオヘビ・キクザトアオヘビ(模式標本)・アカマタ・ガラスヒバア・ハイ・ヒメハブ・ハブ・リュウキュウヤマガメ



展示場風景



展示場風景



沖縄群島の両生爬虫類展示略図

## ○ 謝花雲石展

昭和56年9月5日(土)~24日(休)

昭和55年度予算で購入した謝花雲石の直筆50点を中心に、雲石書道同好会員の蔵品で構成した。謝花雲石は、本名を寛剛といい、明治16年那覇市に生まれ、明治44年朝鮮に渡り、そこで海岡・金圭鎮氏に師事し、王羲之の書風を学ぶ。大正8年帰郷後は、県庁勤務のかたわら、書道研究所を開き、後進の指導にあたる。現代沖縄書道界の最高峰で、子弟の育成のほか、創作活

動に専念した。昭和50年2月、心臓マヒのため、93歳で他界した。この特別展は、奇くも氏の7周忌にあたり、雲石書道同好会でもそのための協力を惜しまなかった。(担当：上江洲均)



	品名	数量	備考
1	「五色慶雲……」	1	我喜屋 汝 揖 氏 蔵
2	「槐葉層二……」	1	県立博物館蔵
3	「少年易老……」	1	〃
4	竹の 図	1	宮城能栄氏蔵
5	関帝王の 図	1	大城民子氏蔵
6	達磨 図	1	富原盛行氏蔵
7	扁額「熟慮断行」	1	〃
8	「寒山拾得……」	1	県立博物館蔵
9	洛神 賦	8	〃
10	扁額「嘉福成基」	1	〃
11	山水 図	1	謝花寛立氏蔵
12	「登涉寒山……」	1	県立博物館蔵
13	寿	1	〃
14	てん 書	1	〃
15	「門前肅索……」	1	〃
16	白居易詩「柳無気力……」	1	〃
17	扁額「萬国陽和」	1	大城民子氏蔵
18	「緑葉吟風勁」	1	県立博物館蔵
19	「天開萬国歡」	1	〃
20	淮南子「悦其志……」	1	〃
21	梅の 図	1	喜久山朝重氏蔵
22	山水 図	1	宮城能栄氏蔵
23	蘭の 図	1	山里景春氏蔵
24	台湾子右任先生書卷	1	謝花寛立氏蔵
25	落か かん	20	〃
26	新聞切抜	5冊	大城民子氏蔵
27	毛筆その他	66	県立博物館蔵

○ 「沖縄の美—日本民芸館蔵—」

併催：戦前の沖縄写真展

主催：沖縄県・沖縄県教育委員会・当館・日本民芸館・沖縄タイムス社

会期：昭和56年10月17日(土)～11月15日(日) (30日間)

会場：第1室、第2室、第3室、2階ロビー、第5室(写真展)

この特別展は東京駒場にある日本民芸館(昭和11年10月開館)所蔵の沖縄の美術工芸品一千余点のなかから、陶器・漆器・染物・織物など代表的な作品五百余点を選んで一般公開したものである。

同資料は昭和10年代に柳宗悦氏を団長として沖縄民芸調査団が大挙来島し、沖縄の民芸をはじめ文化全般にわたって精力的に調査研究を行なった。そのかわり沖縄のすぐれた美術・工芸品を数多く収集して持ち帰った。現在、これらの資料は日本民芸館の主要な収蔵品となっている。

沖縄は去る沖縄戦によって、多くの尊い人命と文化遺産のすべてを失なった。今日、それらの収集品は琉球国時代の文化を知る上でたいへん貴重な資料となっている。

そこで、それらの美術工芸品を40余年ぶりに里帰りさせて展覧会を開催することは大変に意義深いものがある。

同展開催のニュースが流れると地元の伝統工芸関係者はもとより、たちまち一般県民の深い関心と大きな期待を寄せるところとなり、開幕の日が待たれた。

展覧会が始まると初日から多くの観覧者が会場につめかけ、熱心に鑑賞し郷土の美に酔いしれた。

同展の主目的は、まず、明日の伝統工芸の発展と創造に寄与することと、次代を担う青少年をはじめ、多くの県民に鑑賞させ、誇りと勇気を抱かせる一方、地元のすぐれた伝統工芸に興味と関心を持たせることにあった。

一方、併催した「戦前の沖縄写真展—昭和10年代の風物—」は沖縄の美展の準備期間中にあらたに確認された故坂本万七氏撮影の700余枚の写真原版から、動きのある人物を中心に選定して会場構成をした。

写真家坂本氏は昭和14年、柳宗悦氏を団長とする沖縄民芸調査団の一員として来島している。二度目の沖縄旅行は昭和16年に実現しているが、この二回にわたる来島により、県内各地の風物を精力的に写真撮影を行なった。

沖縄は戦争ですべてのものを失ない、かつて栄えた琉球王朝文化をしのぶには、戦後の変ぼうぶりはあまりにも激し過ぎた。そこで古き良き時代の様子が鮮明な写真となって再びよみがえったとき、人々の感動がいかに大きいものであるかをこの写真展で具体的に知ることが出来た。

なお、同展会期中に当博物館に保存されている昭和15年1月に撮影された「琉球の風物」、「琉球の民芸」の二本の映画フィルムをビデオにダビングして、二階ロビーの一角に設置した。会期中、ビデオの前はいつでも人垣で埋っていた。

なお、最後になってしまったが、同展開催にあたっては、日本民芸館のご好意と全面的な協力をいただいた。その外、後援・協力団体・多くの関係者の援助に対しても、厚くお礼を申しあげる所である。(担当：宮城篤正)

主なる出品物

〈漆器〉

- ・黒漆朱定紋入食籠
- ・朱漆丸膳
- ・朱漆酒注
- ・朱漆定紋入冠帽子入

〈陶器〉

- ・赤絵梅竹文碗
- ・緑差からから
- ・赤絵撫子文土瓶
- ・流釉抱瓶
- ・緑釉角座盃台
- ・白打双耳花生

〈染物〉

- ・紅型芝居幕
- ・紅型風呂敷
- ・紅型雲型に鶴亀文着物
- ・紅型亭に松梅牡丹文着物

- ・藍型菖蒲に流水文着物

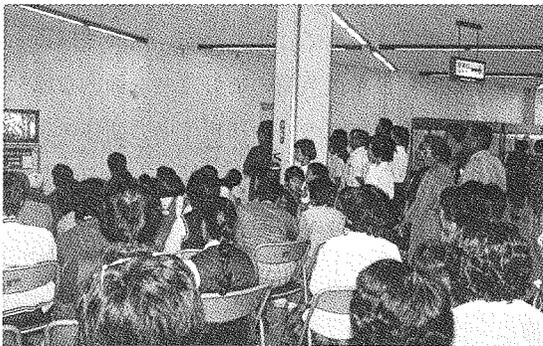
- ・紅型水辺に飛雁文着物

〈織物〉

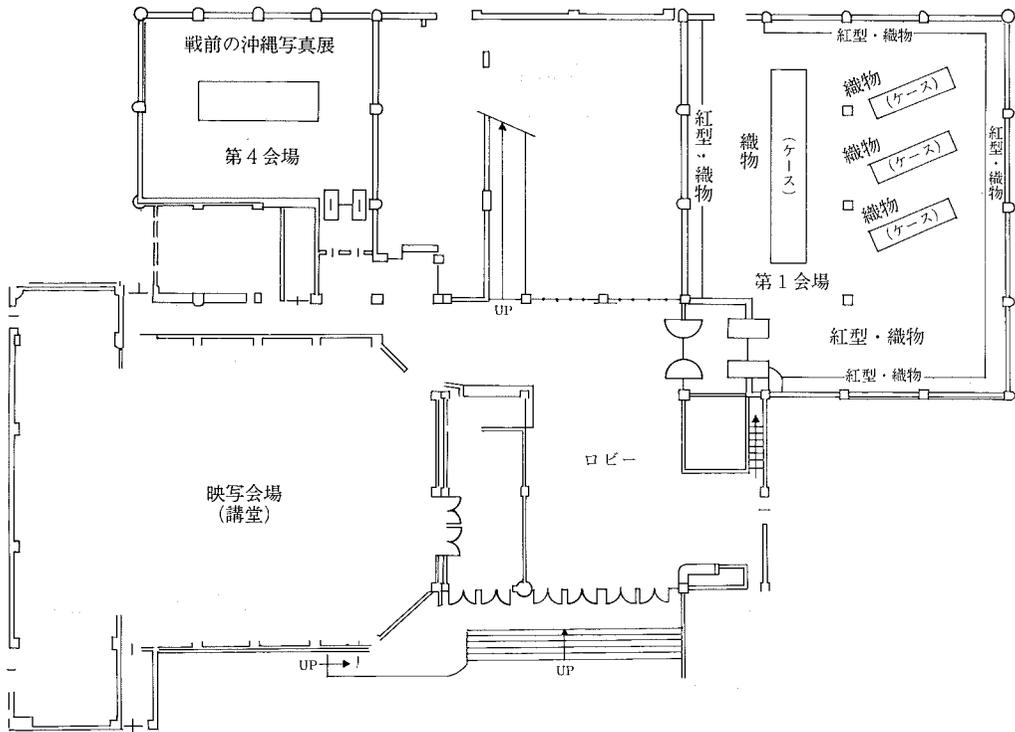
- ・苧麻黄色地赤色格子に緋着物
- ・苧麻紺地あやなか緋着物
- ・木綿紺地総緋着物
- ・芭蕉・木綿・紺地花織手さじ
- ・木綿紺地紺に花織着物

●戦前の写真

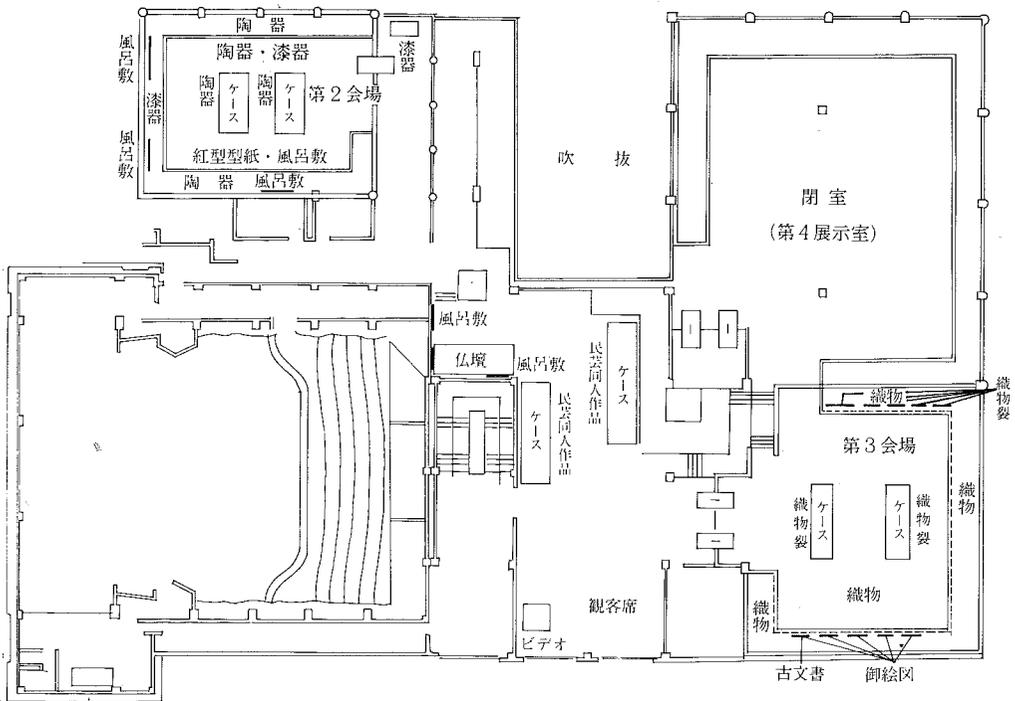
- ・木臼作り・瓦作り
- ・壺屋の陶器作り
- ・酒屋の泡盛仕込み風景
- ・苧剥ぎ（糸芭蕉）
- ・機織り（地機）
- ・紅型の筒描き
- ・那覇の布市場
- ・魚売り糸満女
- ・与那原の綱引き



沖縄の美展 No. 1



沖縄の美展 No. 2



第5室（特別展示室）展示一覧

期 間	展 示 会 名	主 催
<b>昭和56年</b>		
4/3(金)～4/5(日)	研修生卒業展	琉 染
4/21(火)～4/25(土)	書道展	琉浦書道会
5/12(火)～5/31(日)	新収蔵品展	当 館
6/17(水)～6/26(金)	宮城健盛退官記念展	同展準備委員会
6/30(火)～7/5(日)	能勢孝二郎、能勢裕子彫刻展	能勢孝二郎、能勢裕子
8/8(土)～8/30(日)	沖縄群島の両生爬虫類展	当 館
9/5(火)～10/7(水)	謝花雲石展	当 館
10/17(土)～11/15(日)	沖縄の美—日本民芸館蔵	当 館 日本民芸館 沖縄タイムス社
<b>昭和57年</b>		
12/1(火)～12/6(日)	西村貞雄彫刻展	西村貞雄

## 2. 調査研究活動

本年度（昭和56年4月～昭和57年3月）の各担当職員の調査研究の活動状況は以下の通りである。

### (1) 調査研究

**上江洲 均**（学芸係長）

- 4月：年中行事調査（久米島、依頼、8～10日）
- 6月：年中行事調査（久米島、依頼、11～13日）
- 〃 年中行事調査（久米島、依頼、16～17日）
- 7月：年中行事調査（久米島、依頼、25～27日）
- 9月：民俗調査（多良間島、27～29日）
- 57年3月：民俗調査（座間味村、18～20日）

**宮城篤正**（教育普及係長）

- 5月：「中国進貢使路の旅」調査（中国、依頼、4～28日）
- 8月：絵画資料調査（平和祈念堂、20日）
- 57年3月：陶磁器調査（座間味村、8～11日）

**大城逸朗**（主任学芸員）

- 5月：地質調査および資料収集（本部町、今帰仁村、12日）
- 6月：〃（具志川市川崎、26日）
- 7月：洞穴調査および資料収集（多良間島、28～8月1日）
- 57年3月：昆虫化石の調査（名護市許田、大湿帯、11～12日）

3月：地質調査および資料収集（石垣市、20～23日）

**渡名喜 明**（学芸員）

- 57年3月：総合調査（座間味村、25～28日）
- 知念 勇**（主任学芸員）
- 7月：東南アジア貿易陶磁調査（貿易陶磁研究会、7月19日～8月3日）
- 10月：文部省科研究による「南島先史時代の共同研究」（鹿児島大学、1～4日）
- 10月：野国貝塚調査（嘉手納町、依頼、10日～

1月20日）

- 57年3月：城辺町遺跡調査（宮古島、依頼、15～17日）

**当山昌直**（充指導主事）

- 7月：両生爬虫類資料収集（国頭村、10～12日、18～19日）、（渡嘉敷村、14～16日）
- 9月：動物資料収集（名護市、14～15日）
- 9月：総合調査（座間味村、29日～10月2日）

### (2) 講演・研修および大会参加など

**大城徳次郎**（館長）

- 九州博物館協議会理事会並びに総会に出席（福岡、5月13～14日）
- 全国博物館協議会総会および科学博物館協議会理事会に出席（東京、6月29～7月1日）
- 第29回全国博物館大会並びに博物館法施行30周年記念式典に出席（東京、11月4～7日）

**名嘉正八郎**（副館長）

- 「沖縄の歴史と文化について」沖縄総合事務局中堅職員研修会にて講演（10月27日）

**上江洲 均**（学芸係長）

- 国立歴史民俗博物館の民俗展示プロジェクト委員会に出席（千葉、6月29日）
- 国立民族学博物館の国内資料調査委員会に出席（大阪、7月2日）
- 民具学会に出席（愛知県、9月11～16日）
- 『沖縄の民俗と伝統文化』長崎県立美術博物館で講演（長崎、10月24日）
- 沖縄文化協会賞（金城朝永賞）受賞式に出席（東京、11月27～30日）
- 国立歴史民俗博物館の民俗展示プロジェクト委員会に出席（千葉、12月17～19日）
- 『沖縄の民俗文化について』福島県沖縄研修旅行団に講演（那覇、12月30日）
- 国立民族学博物館の国内調査委員会に出席（宮崎、3月24～26日）

**宮城篤正** (教育普及係長)

- 「沖縄の美術」第14回県営写真家協会にて講演(6月18日)
- 「中国のはなし」浦添市内教員研修会にて講演(於名護浦荘)、(7月22日)
- 文化財取扱い講習会(於京都国立博物館)、(11月30日~12月6日)
- 「沖縄の陶芸史」壺屋陶器事業協同組合後継者育成講習会にて講演、(12月22日)

**大城逸朗** (主任学芸員)

- 「粟国島の地質とおいたち」第3回移動博物館(於粟国村)で講演(5月16日)
- 「琉球列島の古生物と宮古島」沖縄生物教育研究会(於宮古平良市)で講演(8月24日)
- 九州博物館協議会庶務学芸員研修会に出席(熊本市、10月6~9日)
- 沖博協研修会に出席(東風平町、57年2月26日)

**渡名喜 明** (学芸員)

- 「渡名喜島と真綿」第4回移動博物館(於渡名喜村)で講演(5月23日)

**知念 勇** (主任学芸員)

- 「粟国島の原始・古代」第3回移動博物館(於粟国村)で講演(5月16日)
- 貿易陶磁研究会に出席(東京、9月10~14日)
- 「先史時代の沖縄」沖縄市民大学講座(於沖縄市)で講演(9月27日)
- 「沖縄先史時代の土器について」鹿児島大学で講演(10月3日)
- 「沖縄の貝塚について」北谷町婦人学級で講演(10月17日)

**当山昌直** (充指導主事)

- 「渡名喜島の動物」第4回移動博物館(於渡名喜村)で講演(5月23日)
- 「渡名喜島の動物(両生爬虫類・哺乳類)に

ついて」沖縄生物学会で講演(5月31日)

- 学芸員資格取得講習会(東京、6月4~23日)
- 沖博協研修会に出席(東風平町、2月26日)

(3) 著作・論文その他

**名嘉正八郎** (副館長)

- 『沖縄の「おもろ」と城郭一発掘調査の展望一』歴史手帖 4月号所収

**上江洲 均** (学芸係長)

- 「奄美諸島の年中行事—アラシチ・シバサシを中心に」九学会連合奄美調査委員会編『奄美—自然・文化・社会—』1982年。
- 「ソテツ天国」地域と文化10号、1982年。

**宮城篤正** (教育普及係長)

- 「中国漆器管見」『中国進貢使路の旅写真集』1981年。
- 酒器二題「ゆしびんとからから」地域と文化、第6・7合併号、1981年。
- 比嘉華山筆「琉球泡盛」のポスターについて地域と文化、第6・7合併号、1981年。
- 「沖縄の美展」博物館の担当者として『民芸』349号、1982年。
- 「沖縄のやきもの」『日本やきもの集成九州II・沖縄』平凡社、1982年。
- 「沖縄の美術・工芸」『浦添市史』第3巻、1982年。
- 「試案沖縄絵画史年表」『沖縄県立博物館紀要』第8号、1982年。

**大城逸朗** (主任学芸員)

- 『琉球列島のなりたち』採集と飼育、第43巻8号、1981年。
- 『宮古島地域の地質と古生物』沖生教育研究会誌第14号、1981年。
- 『沖縄島第三紀島尻層産出のホホジロザメ属とアオザメ属の歯』上野輝彌と共著、沖縄県立博物館紀要第8号、1982年。

- 『浦添市の洞穴—その実態と形成—』新垣義夫と共著、浦添の文化財第2集附属資料、1982年。

**渡名喜 明** (学芸員)

〈資料紹介〉

- 「御書院御物帳」(沖縄県立博物館蔵)
- 「御座飾帳」(同)「御書院並南風御殿御床飾」(同)
- 沖縄県立博物館紀要第8号、1982年。

**知念 勇** (学芸員)

- 『久米島北原貝塚出土の貝斧について』名蔵貝塚発掘調査報告、沖縄県教委、1981年。
- 『南島にみる土器のなぞ』「青い海」第11巻4号、〈株〉青い海出版社。
- 『沖縄の城』探訪ブックス「城」9、小学館、1981年
- 『伊平屋島の先史時代』伊平屋村史、1981年。
- 『多和田真淳調査収集資料について(I)』多和田真淳と共著、沖縄県立博物館紀要第8号、1982年。

**当山昌直** (充指導主事)

- 『宮古群島の両生爬虫類』沖縄生物教育研究会誌、14号、1981年。
- 『宮古群島の動物に関する文献目録(暫定)』共著、沖縄生物教育研究会誌、14号、1981年。
- 『トカゲモドキ』地域と文化、9号、1981年。
- 『宮古群島の哺乳類について』沖縄生物教育研究会誌、14号、1981年。
- 『ワタセジネズミの分布に関する若干の知見』Majaa、創刊号、1981年。
- 『マルゲスの胃内容物の一例』Majaa、創刊号、1981年。
- 『琉球列島両生爬虫類文献目録』沖縄県立博物館紀要、8号、1982年。

### 3. 資料収集活動

昭和56年度の収集点数は、購入が595点、寄贈

が2,759点、収集4点で合計3,358点である。

このうち購入の部では、玉川王子尚慎書、謝花雲石書14点、大城皓也筆「海の祭典」、宮古上布絁着物35点、漆器19点、紅型風呂敷他8点、印籠2点等が代表的なものである。寄贈品では、国外資料の部で長年沖縄研究に関わって来られたハワイのジョージ・H・ケアー博士の「沖縄関係資料」をはじめ、ソ連科学アカデミーから寄せられた「マンモスの体毛」、南米産大蛇「アナコンダの皮」、中国ウイグル自治区の楽器「ルワーブ」、インドネシアの民族資料などが寄せられている。また、県内からは、2,200点にもものぼる「貝類標本」や、世界的にも珍しい「キクザトアオヘビ」などが寄せられた。

昭和56年度は、世界各地の資料が集ったということの特筆すべきである。

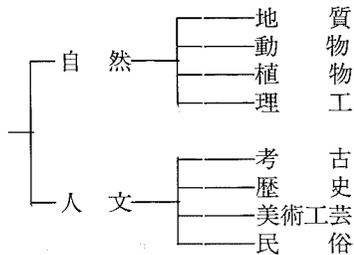
### 4. 資料整理

創立当時、陶器、漆器、織物、書画、木彫、石彫、金属、雑の8項目に分類していたのを昭和43年ごろから項目をふやし、絵画、書跡、彫刻、建築、陶磁器、染織、漆器、金工、歴史、貨幣、音楽、芸能、装身具、民俗、考古、武器・武具、戦争資料、自然の17項目にした。

しかしこの分類も不都合な点が多く、研究会を重ねた結果、総合博物館にふさわしく、「自然」と「人文」の大きな柱を立て、「自然」の下に地質、動物、植物、理工をおき、「人文」の下に考古、歴史、美術工芸、民俗をおくことになり、57年度から実施することになった。

「OPM」(Okinawa Prefectural Museum)を冠した番号打ちができるようになった。

沖縄県立博物館(総合)



### 5. 資料保存・修理

#### (1) くん蒸

例年通り2回、7月6日(月)～8日(水)と、11月21日(土)～23日(月)に実施した。各展示室は、スミチオン煙霧による防虫駆除、各収蔵庫はメチルブロマイド処理を行った。

今回は、県民および市民の所有している資料のくん蒸よびかけに対し、宜野湾市在住の方から爬竜船の竜頭その他があった。

#### (2) 博物館資料の修理状況

諸修理に要した費用は110万余円で、修理状況は以下の通りである。

- 絵画：山田真山筆「達磨図」……軸表装、比嘉華山作「琉球泡盛のポスター」……額表装、伊藤博文書他11点……画帳、浮世絵版画5点……額入れとした。
- 陶磁器：緑釉香炉他14点……口縁部、注口、耳など欠損部を漆で補修した。
- 漆器：朱漆牡丹沈金足付盆、朱漆牡丹巴紋沈金文庫、黒漆人物螺鈿花台……各々剝離部分の補修をした。
- 染織：宮古上布男物、久米島紬着物……補修をした。
- 書跡：玉川王子尚慎書……軸表装をした。
- 民俗：「高倉」……台風で破損部分が生じたので、支柱を加え、屋根に網をかぶせた。
- 考古：大山式土器2点、カヤウチバンタ

式土器2点、萩堂式土器2点……各々復元した。

### 6. 教育普及活動

昭和56年度の博物館文化講座は4月の第85回「琉球大学助教授中村直氏」をはじめとし、5月の移動博物館、11月の企画展会期中を除いて毎月1回実施した。〔詳しくは(1)博物館文化講座参照のこと。〕

5月の第3回移動博物館を粟国村で、第4回移動博物館を渡名喜村で開催した。〔詳しくは(2)移動博物館を参照のこと。〕

この外、企画展「沖縄の美」展と関連させて特別講演会(10月18日)を開催した。演題は「これからの工芸デザイン」日本民芸館館長 柳宗理氏、「民芸の思想—展示品にふれて—」武蔵野美術大学教授 水尾比呂志氏。

一階ロビーの案内コーナーでは観客のいろいろな質問に答えたり、団体見学等へ解説員による展示解説を行なった。

案内コーナーと並んで友の会売店があるが、そこでは博物館案内や特別展、総合調査報告書などを販売して観客へのサービスに努めた。

#### (1) 昭和56年度の博物館文化講座。

第85回、4月25日(土)、「菌の話」講師、仲村直(琉球大学助教授) 参加者40名

- (1)菌類とは (2)生態系と菌類 (3)菌類と人間生活とのかかわり (4)琉球列島の水性不完全菌 (5)総括

第86回、6月27日(土)、「沖縄の系図について」講師 田名真之(那覇市史編集室勤務)、参加者80名 (1)家譜とは何か (2)家譜成立の前提 (3)家譜の成立 (4)家譜の組立 (5)新参譜代家譜 (6)その他 家譜に見る家系相続の禁忌(タブー)について (7)資料例

第87回、7月25日(土)「博物館で描こう」講

師 神山泰治(琉球大学助教授) 参加者20名  
(1)ねらい (2)描写の対象 (3)表現方法 (4)準備用具 (5)日程説明

第88回、8月22日(土)「ハブの話」 講師 吉田朝啓(県立公害衛生研究所長) 参加者90名  
(1)ハブと人間のかかわりあい (2)ハブのメリット (3)ハブのデメリット (4)ハブ対策 (5)地域別ハブ対策—ハブとの住み分け (6)ハブの駆除は可能か? (7)むすび

第89回、9月20日(日)「北部の史跡めぐり」  
講師 名嘉正八郎(当館副館長) 知念勇(当館学芸員) 参加者100名  
〈コース〉(博物館)—野国貝塚—山田城跡—仲泊遺跡—熱田原貝塚—伊武部貝塚—今帰仁城跡—(博物館)

第90回、12月19日(土) (A)「冊封使の話」 講師 島尻勝太郎(沖縄大学理事長)参加者100名  
(1)冊封とは何か (2)冊封使の来島 (3)冊封使と沖縄の文化

(B)「沖縄の慶長検地について」(特別文化講座)  
講師 山本弘文(法政大学教授)  
サブタイトルとして石高制と地割制の問題に関連して話をされた。

第91回、1月23日(土)「沖縄の音楽」 講師 喜名盛昭(沖縄水産高等学校教諭)参加者60名  
特に中国音楽とのかかわりについて資料や楽器を用いて話をされた。

第92回、昭和57年2月27日(土)「神々の島—久高—」 講師 比嘉康雄(写真家)参加者70名

### 第1章 久高人の来世

(1)葬送歌の意味 (2)ティラバンタ (3)昇天するマブイ (4)きびしいニラーハラーへの道 (5)マブイのぬけ殻

### 第2章 シジと神

(1)シジの顕現 (2)シジの依つくとくところ (3)シジ

の顕現の時間 (4)シジと神 (5)ウトウーシ (6)シジと神の顕現の経路 (7)シジの参集

### 第3章 久高島の神観念

(1)太陽神 (2)月神 (3)海の神 (4)ニラーハラーの神々 (5)島創、ユーダティの神々 (6)ウプティシジ (7)御恩 (8)その他 (9)結び

### 第4章 霊観

(1)マブイ、ミプシ、シジの話 (2)マブイ心に宿る (3)さまよえるマブイ (4)御願半分医者半分 (5)マブイを司る者ティユンタ

第93回、3月20日(土)「今帰仁城跡発掘調査の話」 講師 金武正紀(県教育庁文化課専門員) 参加者70名

(1)はじめに (2)文献上に見られる今帰仁城 (3)発掘調査であきらかになった今帰仁城 (4)まとめ

### 特別講演会

10月18日(日) 午後2時30分～5時

参加者250名

演題「これからの工芸デザイン」講師 柳宗理(日本民芸館館長)

「民芸の思想—展示品にふれて—」講師 水尾比呂志(武蔵野美術大学教授)

### (2) 移動博物館

#### ◎第3回移動博物館

○会期 昭和56年5月15日(金)～5月17日(日)

○会場 粟国村旧公民館(展示会)

粟国村中央公民館(文化講座・映写会)

○主催 当館・粟国村・粟国村教育委員会

#### ◎第4回移動博物館

○会期 昭和56年5月22日(金)～5月24日(日)

○会場 渡名喜村民会館(展示会)

渡名喜中学校体育館(文化講座・映写会)

○主催 当館・渡名喜村・渡名喜村教育委員会

移動博物館は、展示会・文化講座・映写会の三本の柱を中心とした内容で構成されている。

展示会は、粟国村と渡名喜村の両方とも「沖縄の自然と文化」のタイトルのもとに、自然史・考古・美術工芸それに戦前の沖縄（写真）の諸資料を展示した。

展示会〈沖縄の自然と文化〉

文化講座は、昭和54、55年度に実施した博物館総合調査の報告もかね、学芸員と特別招聘講師による講演を行なった。

文化講座（粟国村）

粟国島の地質

講師 大城逸朗（当館学芸員）

粟国島の地質を紹介し、その成り立ちをスライドを使って説明する。

粟国島の原始・古代

講師 知念 勇（当館学芸員）

沖縄の原始・古代（貝塚時代からグスク時代まで）を紹介し、粟国島の原始・古代に及ぶ。

粟国島の民話

特別講師 遠藤庄治（沖縄国際大学教授）

沖縄の民話の特徴を述べ、粟国の民話にふれる。

文化講座（渡名喜村）

渡名喜島の動物

講師 当山昌直（当館学芸員）

渡名喜島に生息する動物の生息状況や分布について話す。

渡名喜島と真綿

講師 渡名喜 明（当館学芸員）

王国時代から明治時代における渡名喜島の養蚕と真綿の上納について述べる。

渡名喜島の民俗

講師 上江洲 均（当館学芸員）

石敢当・漁撈・墓制・33年忌祭など渡名喜島の民俗について話す。

ハブ問題あれこれ

特別講師 吉田朝啓（県立公害衛生研究所所長）

ハブと人間のかかわり、ハブの生態、ハブの対策などについて説明する。

映写会は、戦前の沖縄・沖縄の自然・大恐竜展などの内容の映画およびビデオを放映した。

映 写 会

戦前の沖縄

昭和10年代、柳宗悦氏等によって撮影された貴重な記録フィルム（琉球の民芸・琉球の風物）。

沖縄の自然

沖縄の動物の生態を興味深く描いたフィルム（トンボの愛はハート型・酒だ忍法コノハチヨウ他三巻）

大恐竜展

昭和55年、当館で催されたソ連科学アカデミー「失われた生物たち—大恐竜展—」の模様を離島・僻地の児童・生徒のためにビデオに録画したもの。

前記の内容で、両村においてそれぞれ3日間ずつ催した「移動博物館」の利用者は、次に示すとおりである。

（粟国村、人口約1,200名）

〈展示会〉

5月15日(金) 大人120 小人217 計337名

5月16日(土) 大人73 小人216 計289名

5月17日(日) 大人24 小人34 計58名

（日曜日は午前中のみ） 総計684名

〈文化講座〉

5月16日(土) 50名

〈映写会〉

5月15日(金) 53名

5月16日(土) 90名

(渡名喜村、人口約600名)

〈展示会〉

5月22日(金) 大人92 小人117 計209名

5月23日(土) 大人73 小人48 計121名

5月24日(日) 大人19 小人 5 計24名  
(日曜日は午前中のみ) 総計354名

〈文化講座〉

5月23日 72名

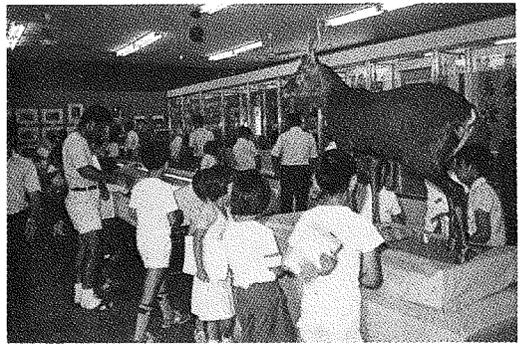
〈映写会〉

5月23日(土) 130名

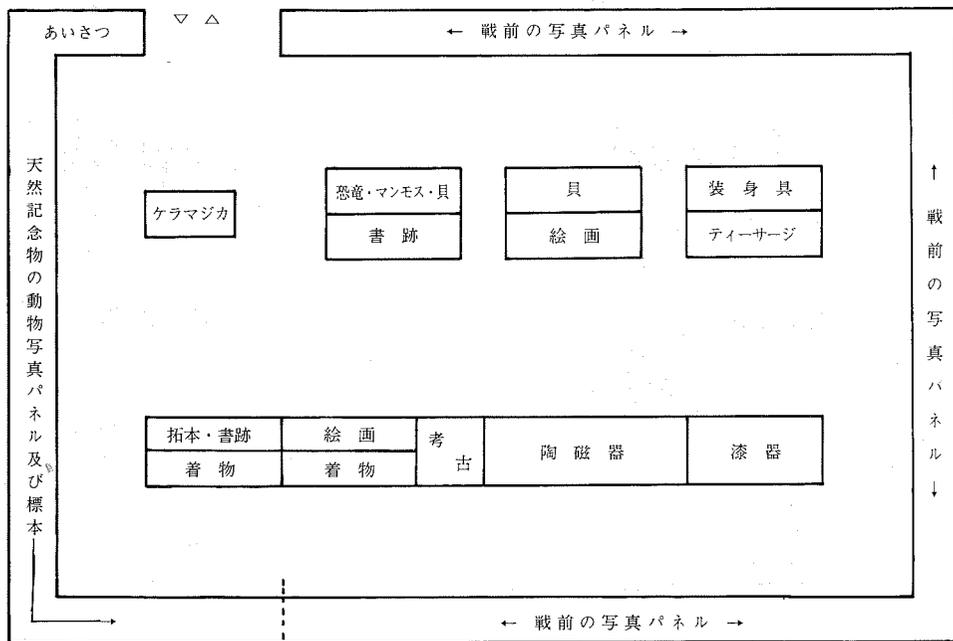
いずれの村でも過半数の村民が「移動博物館」を利用しており、わざわざ盛装して見学に来られ、熱心に観覧している年配の方々が多かった。

第1回から第2回まで、わずかの予算の範囲内でしかできなかった。また、展示会には美術工芸などの実物を展示したくとも、それを収め

る展示ケースがないために写真パネルがほとんどを占めた。56年度の第3回と第4回目は、前年度の反省に基づいて、文部省の地方社会教育活動費補助金(社会教育施設活動促進費)を受けたこと、及び離島・僻地を対象とした「移動博物館」の意義を県当局も理解し、組立展示ケースなどを製作できたことによって、より充実した内容の「移動博物館」を実施することができたものと確信している。

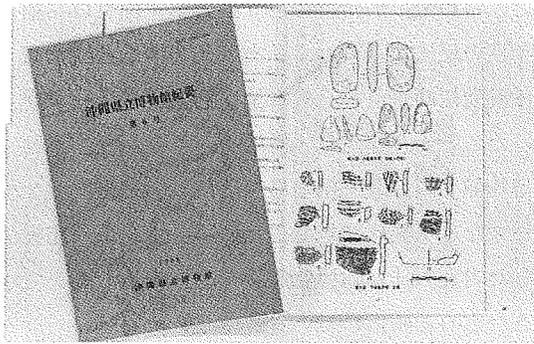


移動博物館展示場

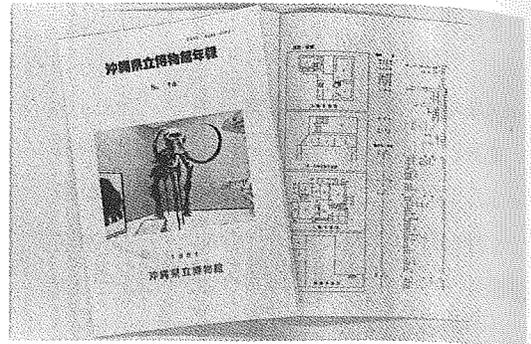


第3・4回 移動博物館展示略図

3) 出版



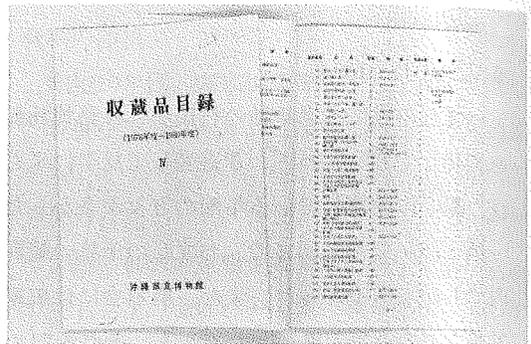
紀要8号



年報No14



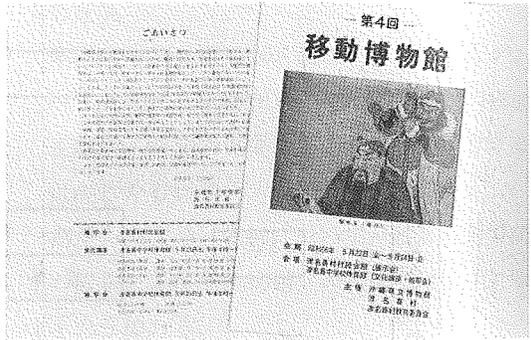
博物館だより11, 12号



収藏品目録



第3回移動博物館



第4回移動博物館



新収藏品展



沖繩群島両生爬虫類展

嘉福成基



櫻葉層々新緑生容  
懐依舊不能平月移  
一掃西窗下要近世展  
筆腕而聲

謝花雲石展

謝花雲石展

第3回 移動博物館

昭和56年5月15日(金)・16日(土)・17日(日)

午前9時～午後6時(入場無料)

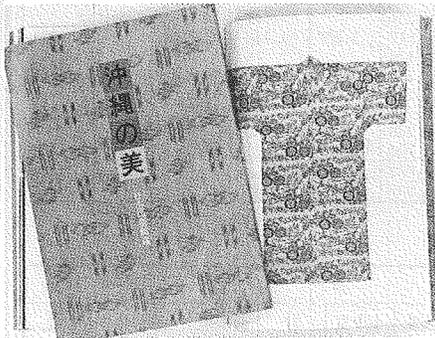
主催 沖縄県立博物館、読名郡村(読名郡村教育委員会)

【展示】 読名郡村民会館

【文化講座】 読名郡中学校体育館 5月15日(金)午後4時～6時

【講演会】 読名郡中学校体育館 5月17日(日)午後3時～5時

第3回移動博物館



沖縄の美

第4回 移動博物館

昭和56年5月22日(金)～24日(日)

午前9時～午後6時(入場無料)

主催 沖縄県立博物館、読名郡村(読名郡村教育委員会)

【展示】 読名郡村民会館

【文化講座】 読名郡中学校体育館 5月23日(土)午後4時～6時

【講演会】 読名郡中学校体育館 5月24日(日)午後3時～5時

第4回移動博物館

沖縄県立博物館

年間行事ポスター

常設展 沖縄の歴史と文化

特別展 民衆の星祭り

特別展 沖繩の美

特別展 謝花雲石展

特別展 両生爬虫類展

年間行事ポスター

新収蔵品展

昭和56年5月12日・21日

沖縄県立博物館

新収蔵品展

特別展 謝花雲石展

五色慶雲開  
鳳尾九重麗日  
繞龍鱗

7月15日～24日

沖縄県立博物館

謝花雲石展

民衆の星祭り

特別展 沖繩の美

特別展 謝花雲石展

特別展 両生爬虫類展

10月17日～11月15日

沖縄県立博物館

沖縄の美

両生爬虫類展

両生爬虫類展

# 入館者数

## 月別入館者数 (常設展)

( )内は無料扱い

	個人				団体				総計				開館日数	1日平均
	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計		
56年4月	(17) 5,540	293	370	(17) 6,203	(314) 1,833	463	(10) 126	(342) 2,422	(331) 7,373	756	(10) 496	(341) 8,625	25	345
5月	(92) 4,610	110	209	(94) 4,929	(1,105) 1,199	923	(69) 1,017	(1,174) 3,139	(1,197) 5,809	1,033	(71) 1,226	(1,268) 6,548	25	322
6月	(40) 3,800	140	245	(40) 4,185	(320) 1,333	569	(18) 461	(338) 2,363	(360) 5,133	709	(18) 706	(378) 6,548	24	272
7月	(33) 4,150	690	638	(33) 5,478	(199) 859	816	(2) 158	(201) 1,833	(232) 5,009	1,506	(2) 796	(292) 7,311	21	348
8月	(14) 6,991	1,261	2,732	(14) 10,984	(268) 1,185	1	(10) 798	(278) 1,984	(282) 8,176	1,262	(10) 12,968	(197) 12,968	25	518
9月	(8) 3,719	314	452	(8) 4,485	(147) 1,648	140	(42) 261	(189) 2,049	(155) 5,367	454	(42) 713	(197) 6,534	24	272
10月	801	18	13	832	179	638	351	1,168	980	656	2,000	6	233	
11月11月					(258) 848		(41) 994	(294) 3,920	(253) 3,617	2,237	(41) 1,140	(294) 6,994	24	291
12月	(17) 2,769	159	146	(17) 3,074	(159) 848	2,078	(5) 994	(164) 3,920	(176) 3,617	2,237	(5) 1,140	(181) 6,994	24	291
57年1月	(31) 3,490	129	209	(31) 3,824	(192) 1,684	20	(125) 35	(317) 1,739	(223) 5,174	149	(13) 244	(361) 5,567	23	242
2月	(24) 4,070	257	170	(24) 4,497	(245) 3,188	71	(30) 596	(275) 3,855	(269) 7,258	328	(30) 766	(299) 8,352	23	363
3月	(276) 6,015	(13) 952	(2) 507	(276) 7,474	(291) 1,689	1,647	(2) 474	(3,634) 3,810	(3,558) 7,704	(13) 2,599	(354) 981	(3,925) 11,284	25	451
計	45,955	4,323	5,691	55,969	15,645	7,366	5,271	28,282	61,600	11,689	10,962	84,251	245	343

## 曜日別入館者数 (常設展)

	個人				団体				総計				開館日数	1日平均		
	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計		個人	団体	計
火	6,996	656	857	8,509	1,605	828	1,805	4,238	8,601	1,484	2,662	12,747	40	212	105	317
水	7,971	696	815	9,482	2,087	1,757	1,139	4,983	10,058	2,453	1,954	14,465	42	225	118	343
木	7,411	724	583	8,718	2,150	1,467	793	4,412	9,561	2,193	1,376	13,130	41	212	107	319
金	6,942	813	804	8,559	2,649	1,981	941	5,571	9,591	2,794	1,745	14,130	41	208	135	343
土	7,219	837	831	8,887	3,788	712	328	4,828	11,007	1,549	1,159	13,715	42	211	114	325
日	9,416	597	1,801	11,814	3,366	619	265	4,250	12,782	1,216	2,066	16,064	39	302	108	393
計	45,955	4,323	5,691	55,969	15,645	7,366	5,271	28,282	61,600	11,689	10,962	84,251	245	228	115	343

## 団体入館者数 (常設展)

	県内								県外								国外								総計	
	大人		高大生		小中生		計		大人		高大生		小中生		計		大人		高大生		小中生		計			
	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員		
56年4月	4	105	0	0	0	4	105	20	1,375	5	463	9	126	34	1,964	12	353	0	0	0	12	353	50	2,422		
5月	4	200	3	247	11	706	18	1,153	16	547	6	676	1	163	23	1,386	16	452	0	2	148	18	600	59	3,139	
6月	3	73	2	246	7	461	12	780	19	770	1	302	0	20	1,072	17	490	1	21	0	18	511	50	2,363		
7月	5	175	2	66	3	47	10	288	13	317	2	750	4	92	19	1,159	12	367	0	4	9	16	386	45	1,833	
8月	6	120	1	1	10	288	18	409	12	449	0	0	7	490	19	939	21	616	0	5	20	26	636	63	1,984	
9月	1	30	1	23	3	197	5	250	8	312	2	117	0	10	429	40	1,306	0	1	64	41	1,370	56	2,049		
10月	1	31	0	0	2	351	3	382	1	50	2	638	0	0	3	688	4	98	0	0	0	4	98	10	1,168	
11月	特別展「沖繩の美」																									
12月	4	122	1	20	7	992	12	1,134	13	565	6	2,058	1	2	20	2,625	5	161	0	0	0	5	161	37	3,920	
57年1月	0	0	0	0	0	0	0	40	1,572	0	0	5	33	45	1,605	5	112	1	21	1	2	7	134	52	17,39	
2月	2	82	0	0	4	549	6	631	66	2,929	1	71	1	26	68	3,026	6	177	0	0	2	21	8	198	82	3,855
3月	0	0	1	24	2	369	3	393	41	1,643	4	1,586	10	58	55	3,287	1	46	1	37	2	47	4	130	62	3,810
計	30	938	11	627	49	3,960	91	5,525	249	10,529	29	6,661	38	990	316	18,180	139	4,178	3	78	17	321	159	4,577	566	28,282

特別展 「沖縄の美」入館者数

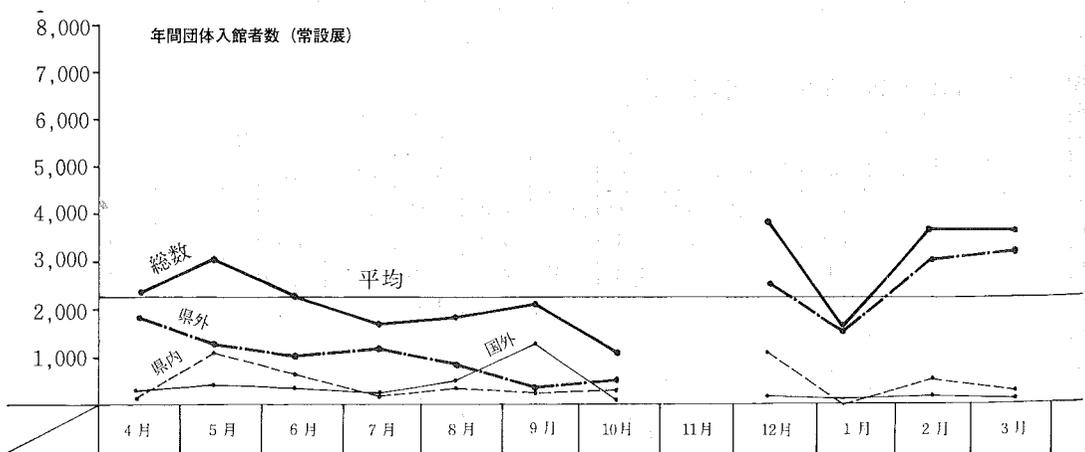
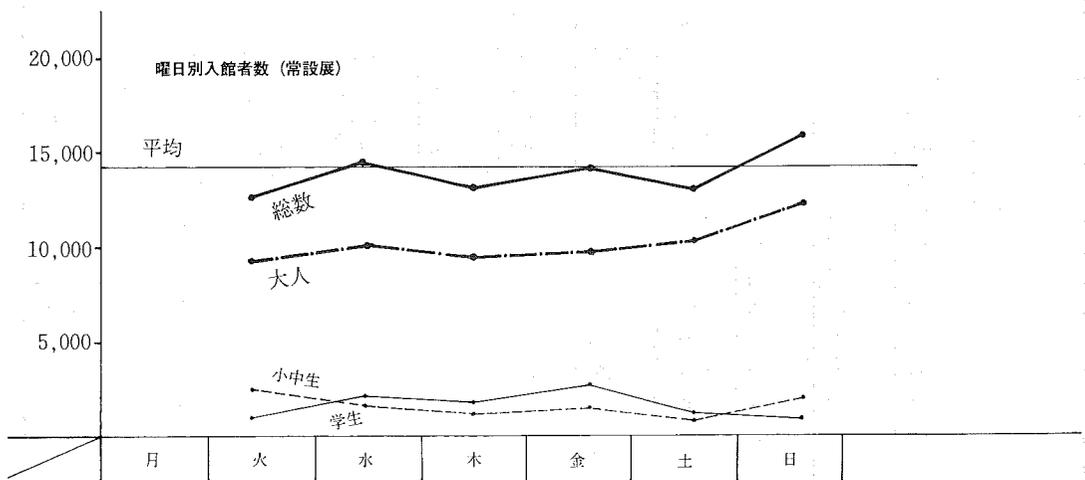
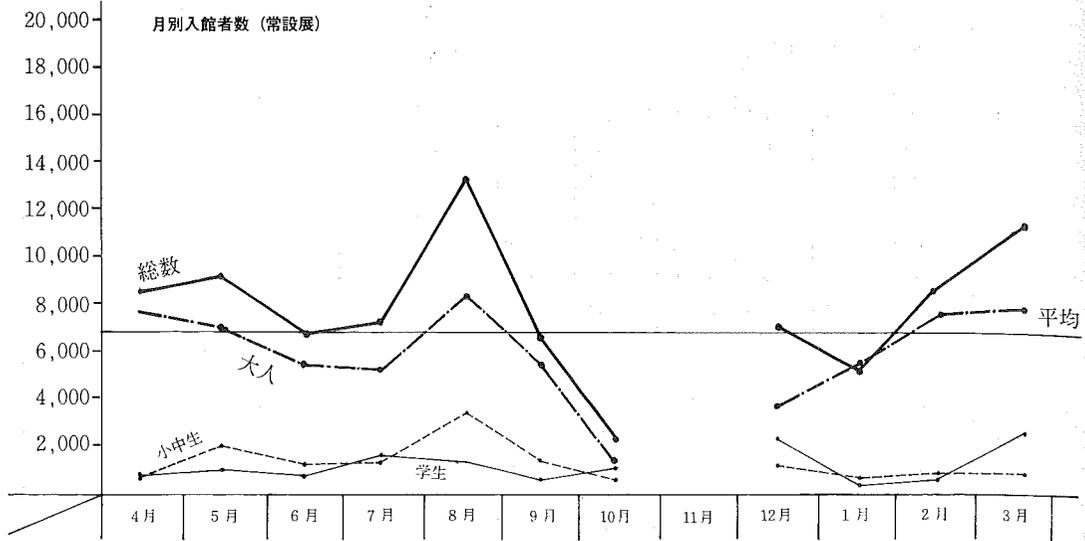
日平均	個 人				団 体 (前売を含む)				招 待		無 料	総 計
	一 般	高大生	小中生	計	一 般	高大生	小中生	計	招 待	引 率	(幼児含)	
	498	29	25	552	141	101	11	253	31	12	24	872
345	1,589	43	345	1,977	192	6	2	200	25	9	139	2,350
322	625	4	113	742	67	2	1	70	20	4	41	877
272	620	14	3	637	166	2	871	1,039	158	55	10	1,899
348					台風のため休館							
518	589	43	47	679	148	0	0	148	18	20	28	893
272	712	29	362	1,103	139	252	19	410	25	21	57	1,616
233	1,020	20	319	1,359	119	5	23	147	29	7	186	1,728
291	1,826	59	493	2,378	168	51	12	231	56	13	239	2,917
242	549	19	4	572	16	48	481	545	49	17	22	1,205
363	563	20	0	583	141	0	1,455	1,596	248	71	17	2,515
451	549	26	8	583	26	0	765	791	148	61	15	1,598
343	587	13	9	609	12	41	737	790	116	28	19	1,562
	540	16	15	571	157	33	1,003	1,193	196	101	31	2,092
	702	49	245	996	213	2	89	304	36	8	71	1,415
	1,682	42	554	2,278	137	1	62	200	53	7	232	2,770
	532	10	9	551	98	2	162	262	37	25	19	894
	1	0	0	1	2,293	84	794	3,171	48	5	310	3,535
	591	22	17	630	42	326	698	1,066	122	38	17	1,873
	593	7	10	610	54	398	234	686	87	28	16	1,427
	606	9	3	618	49	188	186	423	99	39	25	1,204
	803	14	96	913	160	70	254	484	63	101	27	1,588
	1,959	61	575	2,595	87	11	66	164	104	1	291	3,155
	537	8	12	557	91	16	424	531	90	23	21	1,222
	702	22	15	739	162	139	296	597	158	59	28	1,581
	904	26	23	953	88	86	385	559	92	16	30	1,650
	853	25	12	890	100	548	182	830	303	158	27	2,208
	1,027	39	49	1,115	103	194	1,296	1,593	406	167	44	3,325
	1,566	73	300	1,939	257	3	296	556	316	55	170	3,036
	3,513	83	1,041	4,637	297	8	119	424	290	10	435	5,796
計	26,838	825	4,704	32,367	5,723	2,617	10,923	19,263	3,423	1,159	2,591	58,803

※招待者の中には小・中・高校の要・準要・保護児童生徒及び授業料免除生徒、特殊学校児童生徒を含む。

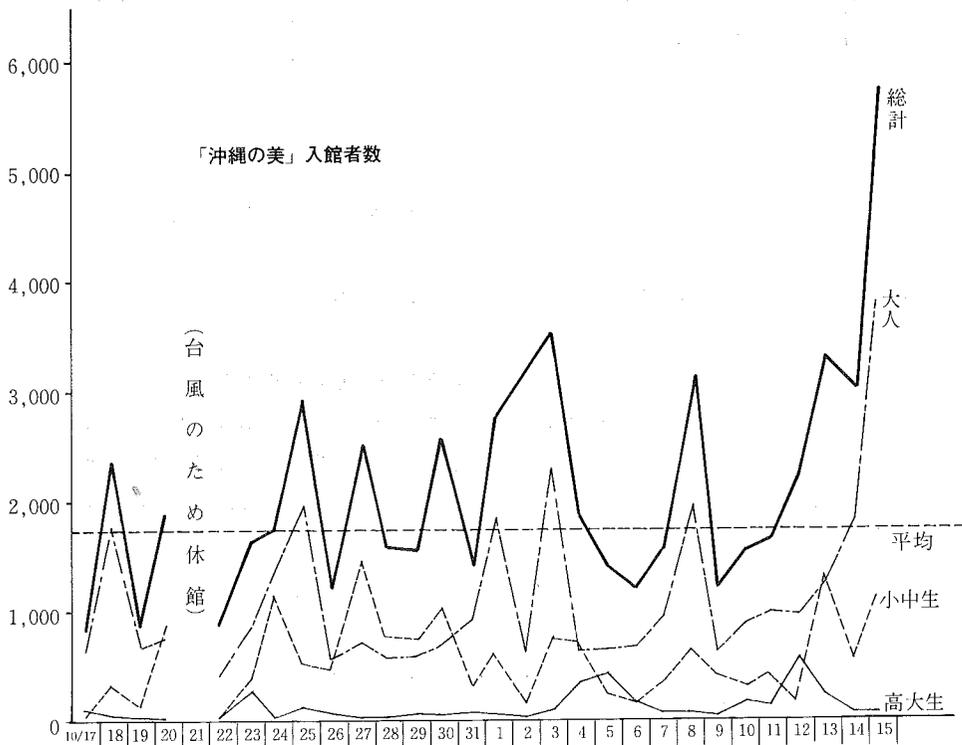
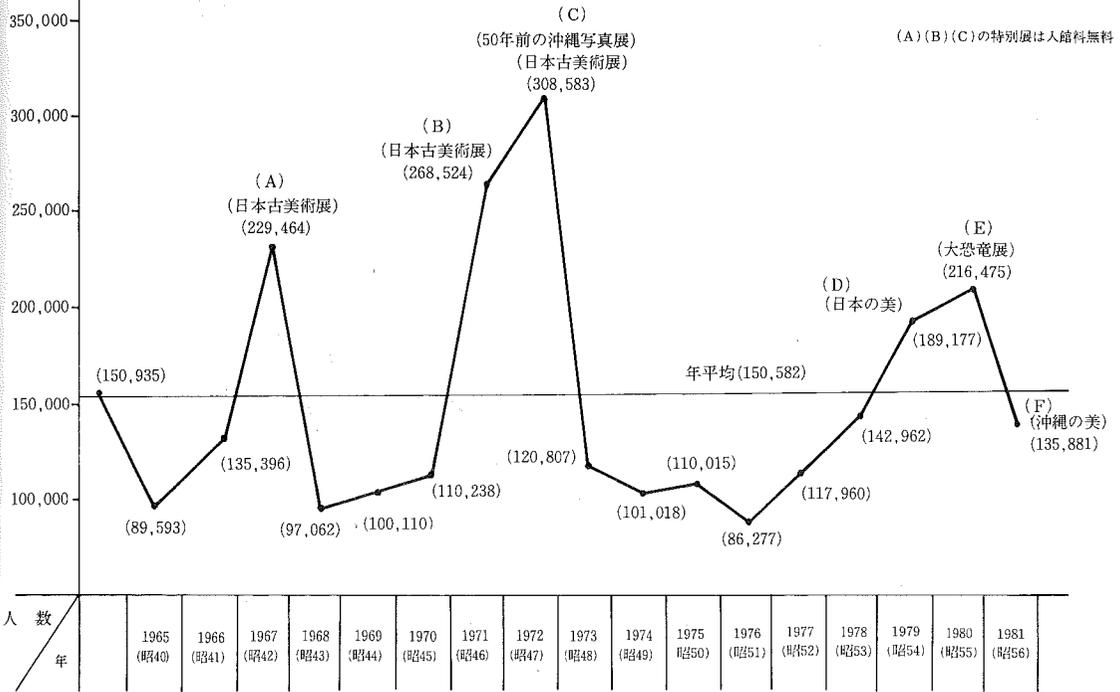
曜日別入館者数 (特別展) 「沖縄の美」

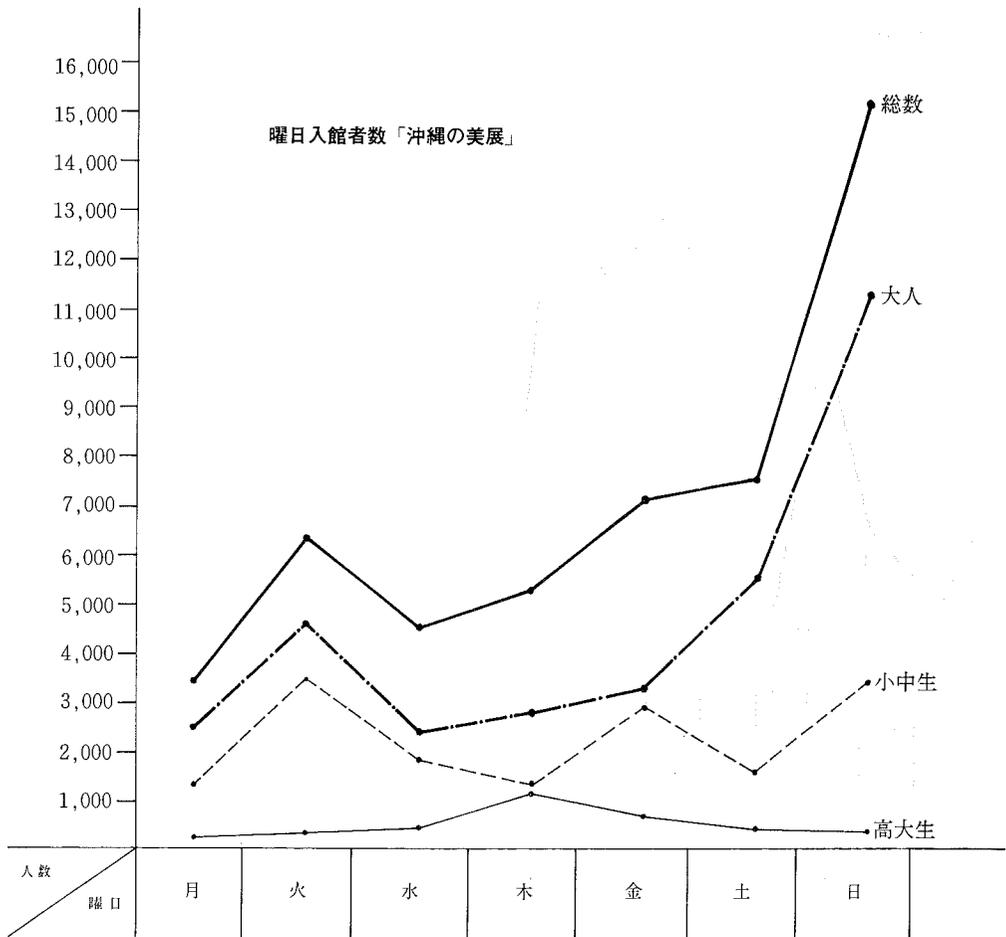
	個 人				団 体				総 数				開館日数	1 日 平 均		
	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計		個 人	団 体	計
月	2,243	41	138	2,422	272	68	1,068	1,408	2,515	109	1,206	3,830	4	606	352	958
火	1,886	56	18	1,960	2,762	225	3,416	6,403	4,648	281	3,434	8,363	4	490	1,601	2,091
水	2,044	74	48	2,166	156	412	1,848	2,416	2,200	486	1,896	4,582	3	722	805	1,527
木	2,622	88	78	2,788	314	987	1,153	2,454	2,936	1,075	1,231	5,242	4	697	614	1,311
金	2,885	93	429	3,407	448	667	2,504	3,619	3,333	760	2,933	7,026	4	852	905	1,757
土	4,589	185	985	5,759	890	181	673	1,744	5,479	366	1,658	7,503	5	1,152	349	1,501
日	10,569	288	3,008	13,865	881	77	261	1,219	11,450	365	3,269	15,084	5	2,773	243	3,017
計	26,838	825	4,704	32,367	5,723	2,617	10,923	19,263	32,561	3,442	15,627	51,630	29	1,116	664	1,780

# 入館者数 (常設展)



年度別入館者推移





## 入館者数

今年度の入館者総数（常設、特別展）は、146,979名で年間274日開館し、1日平均入館者は536人である。

常設展は、月別の入館者は前表のとおりであるが、8月、3月が圧倒的に多くこの2ヶ月で全体の約30%を占めている。

また特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」ならびに戦前の沖縄写真展—昭和10年代の風物—が昭和56年10月17日から11月15日までの30日間（内1日は台風のため休館）日本民芸館所蔵の沖縄関係の美術工芸資料1千余点のなかから漆器、陶器、染物、織物など代表的な作品5百余点を選んで展示され、沖縄のすぐれた美術工芸品を鑑賞したことによって、伝統工芸に対する再認識と関心を深める絶好の機会になったと思われる。

また戦前の沖縄写真展も古き良き時代の沖縄の風物写真は県民の興味と関心を呼び起した事と思われる。

延入館数は、58,803人で、1日平均1,721人1日の最高入館者数は11月15日（最終日）の5,796人で11月3日（公休日）の3,535人がこれにつぐ。

# 資 料

## 1. 昭和56年度收藏資料

昭和57年3月31日現在

分 類	受 理 次 第	購 入	寄 贈	収 集	移 管	計
繪 画	A	4	1	0		5
書 跡	B	18	1	0		19
彫 刻	C	0	0	0		0
建 築	D	0	0	0		0
陶 磁 器	E	1	11	0		12
染 織	F	45	16	0		61
漆 器	G	19	1	0		20
金 工	H	0	0	0		0
歷 史	I	0	43	0		43
貨 幣	J	0	0	0		0
音樂・芸能	K	0	5	0		5
裝 身 具	L	2	1	0		3
民 俗 俗	M	0	62	2		64
考 古	N	0	306	0		306
武器・武具	O	0	0	0		0
戦争資料	P	0	0	1		1
自 然	X	506	2,312	1		2,819
計		595	2,759			3,358

## 2. 收藏資料現在高

昭和57年3月31日現在

分 類	受 理 次 第	購 入	寄 贈	収 集	移 管	計
繪 画	A	65	91	1	0	157
書 跡	B	145	403	50	5	603
彫 刻	C	11	27	163	0	201
建 築	D	4	18	0	0	22
陶 磁 器	E	427	771	256	502	1,956
染 織	F	829	231	12	0	1,072
漆 器	G	195	143	114	0	452
金 工	H	10	51	21	0	82
歷 史	I	4	201	2	1	208
貨 幣	J	25	628	86	0	739
音樂・芸能	K	50	74	0	0	124
裝 身 具	L	70	39	14	0	123
民 俗 俗	M	446	1,630	79	74	2,229
考 古	N	36	824	195	0	1,055
武器・武具	O	12	17	0	0	29
戦争資料	P	111	13	1	0	125
自 然	X	1,402	2,514	7	0	3,923
計		3,842	7,675	1,001	582	13,100

### 3. 新収蔵資料内容

#### (1) 購入の部

分類	品名	数量
絵画	魚	1
"	達磨図 他	2
"	海の祭典	1
書跡	中山尚慎書軸物 他	2
"	謝花雲石書杜牧詩 他	14
"	季鴻章の書	1
"	毛延章書軸	1
陶磁器	線彫抱瓶	1
染織	松竹梅鶴亀文様紅型風呂敷 他	9
"	宮古上布緋着物(錢玉) 他	35
"	白地団扇檜扇紅葉文紗綾紅型着物	1
漆器	黒漆鳳凰草花螺鈿盆 他	2
"	朱漆牡丹巴紋沈金足付盆	1
"	黒漆桐鳳凰草花螺鈿重箱	1
"	山水箔絵吉祥文長盆	15
装身具	黒漆山水人物螺鈿印籠	1
"	山水堆錦印籠	1
自然	両雲母花崗岩(中粒) 他	200
"	水晶	1
"	自然金 他	305

#### (2) 寄贈の部

分類	品名	数量	寄贈者	住所
絵画	夕照	1		
書跡	楓橋夜泊(拓)	1		浦添市
陶磁器	喜名焼 甕	1	名渡山 愛文	那覇市
"	南蛮市来式花生	1	中川 伊作	沖繩市
"	無地湯呑 他	2	国吉 真栄	那覇市
"	壺	1		
"	荒焼茶壺	1	吉戸 直	"
"	丹彩土鍋 他	2	仲村 渠常博	"
染織	紅型下絵 他	14	等々力 孝志	"
"	水色地流水花鳥模様紅型着物	1	仲尾 権四郎	
"	木綿紺地経緯緋着物	1	仲真 恒子	
漆器	黒漆牡丹人物箔絵螺鈿角膳 他	2	吉戸 直	那覇市
歴史	さし絵琉球那覇行政長官	1	柳 悦孝	
"	表彰状 他	10	池原 清子	東京都

分類	品名	数量	寄贈者	住所
歴史	髻飾録	1		浦添市
"	尋常小学校読本他	15	伊藤勝一	京都市
"	東遊草他	15	博物館友の館	
"	絵踏絵	1	仲村渠常博	那覇市
楽器・芸能	チヂン(鼓)	1	吉戸直	"
"	パーランク	1	"	"
"	ニ線(胡弓)	1	"	"
"	ルワープ(rawap)	1	平和彦	東京都
民俗	キセル吸口他	5	国吉真英	那覇市
"	酒德利他	4	大見謝恒真子	"
"	水褰他	2	金城文子	"
"	厨子がめ他	3	山城興長	"
"	ボージャ一厨子褰	1	仲里昌和	"
"	突棒船(模型)	1	金城武三	"
"	鬼面	3		北谷町
"	牛	1	伊藤勝一	京都市
"	子供着物	1	仲村渠常博	那覇市
"	ト一カチ	8	金城ヨシ	"
"	古一ガ一シリ	1	普天間敏み	佐敷町
"	ソ一ガ一シリ	1	糸数とみ	那覇市
"	久米島紬着物(男物)他	2	仲村竹	久米島・具志川村
"	"(女物)	1	玉那覇	"
"	"	1	上江洲ノブ	"
"	久米島紬羽織(男物)	2	安村仁吉	"
"	胡弓	1	又吉真栄	那覇市
"	台湾の信仰具	25	奥浜真昌	"
考古	染付他	289	ジョージH・ケアー	アメリカハワイ州
"	白磁片他	17	又吉真三	那覇市
装身具	ジ一フア一	1	前田シズ	玉城村
自然	鮫の歯	1	安里進	
"	"	1	平良正人	豊見城村
"	マンモスの体毛	1(約40本)	ソ連科学アカデミー動物学研究所	
"	鉦物緑鉛鉦他	8	西川功	広島県
"	化石樹枝状六射サンゴ他	18	"	"
"	岩石変輝緑岩他	15	"	"
"	四射サンゴワーゲノフィルム	1	石橋毅	福岡市
"	シダ植物化石クラドレビス	1	奥田朝造	大阪市
"	メタセコイア	1	"	"
"	ブナ科植物の化石	1	"	"
"	四射サンゴワーゲノフィルム	1	"	"

分 類	品 名	数量	寄 贈 者	住 所
自 然	ペンタクリヌス (五角ウミユリ)	3	奥 田 朝 造	大 阪 市
"	モ ノ チ ス	1	"	"
"	ホ タ テ ガ イ	1	"	"
"	パ ラ フ ズ リ ナ	1	"	"
"	ホ タ テ ガ イ	1	"	"
"	シダ植物化石オニキオブシス	2	阪 野 高 子	"
"	ザ ミ オ フ ィ ラ ム	1	"	"
"	プ チ イ ロ フ ィ ラ ム	1	阪 野 広 二	"
"	プロイログラマトドン	1	"	"
"	シダ植物化石 クルキア	1	阪 野 民 子	"
"	ア ン モ ナ イ ト	1	山 本 勝 吉	大阪府八尾市
"	ハ チ ノ ス サ ン ゴ	1	"	"
"	ク サ リ サ ン ゴ	1	"	"
"	リュウキュウジカの頭骨化石	1	新 城 一 郎	浦 添 市
"	ヤシ科 シユロ化石	1	阪 野 住 子	大 阪 市
"	珪 化 木	1	"	"
"	シダ植物化石 クルキア	1	阪 野 民 子	"
"	アナコンダの皮	1	当 銘 由 金	那 覇 市
"	小笠原のグリーンサンド	1	玉 城 勉	沖縄天然ガス開発
"	ツ ノ 貝 化 石	1	新 里 力 蔵	那 覇 市
"	リン 酸 塩 鉍 物	1	国 吉 真 英	"
"	キクザトアオヘビ	1	喜 久 里 教 達	"
"	リュウキュウイノシシ	1	池 原 貞 雄	"
"	ヒ レ ガ イ 他	2,237	仲 嶺 俊 子	名 護 市

(3) 収集の部

分 類	品 名	数 量
民 俗	テ イ ビ ク の 刃 先	1
"	黒 壺	1
戦争資料	米 軍 短 刀	1
自 然	リュウキュウイノシシの歯化石	1

4 .新収蔵図書

(1) 寄贈図書

書 名	寄 贈 者 名	書 名	寄 贈 者 名
美術館だより 184~194	和歌山県立近代美術館	友の会だより 第3号	盛岡橋本美術館
国立科学博物館ニュース 4月号~3月号	国立科学博物館	佐世保市文化科学館だより No.4~No.8	佐世保市役所
博物館だより 6月号~5月号	沼津市歴史民族資料館	青森県立郷土館だより No.1~No.4	青森県立郷土館
博物館だより No.8~No.11	岩手県立博物館	ろびい 第13号~第16号	北海道立近代美術館
科学館ニュース No.177~No.187	市立名古屋科学館	染織マンスリー 4月号	染織と生活社
EXPO '85 No.2~No.3	国際科学技術 博覧会協会	平良市史 編集だより	平良市役所
International exchange news	Washington Interna- tional center of meri- talian house Internat- ional	全科協ニュース No.2~No.5	全国科学博物館協議会
建設調査室だより 3~4	明治百年記念館 建設調査室	大分県立芸術会館 5月	大分県立芸術会館
サルビア No.10	栃木県立郷土資料館	little world news No.24~No.26	リトルワールド
私たちの博物館 第2号~第12号	青森県立郷土館	岡山県立博物館だより 15~17	岡山県立博物館
視る 165号~177号	京都国立近代美術館	博物館ニュース第60号~第65号	山形県立博物館
天花 第7号~9号	山口県立美術館	名古屋市博物館だより 19~24	名古屋市立博物館
伝工指ニュース No.18~No.21	沖縄県立伝統工芸指導所	博物館ニュース 第408号~第416号	東京国立博物館
Free China weekly	自由中国週報社	243 まつり通信 5月号	まつり同好会
長崎県立美術館だより No.53~No.58	長崎県立美術館	地質ニュース 320~330	地質調査所
富士美術館だより No.12~No.13	富士美術館	仙台市博物館だより No.36~No.40	仙台市博物館
図書館だより 1号~4号	北海学園大学付属図書館	沖縄建設新聞 No.969~No.1019	沖縄建設新聞社
郷土資料館だより	石川県立郷土資料館	埋蔵文化財ニュース	奈良国立文化財研究所
友の会だより 12号	北海道立 三岸好太郎美術館	福岡市美術館ニュース No.2~No.5	福岡市美術館
神奈川県立博物館だより 4月号~3月号	神奈川県立博物館	資料館だより 第11号	瀬戸内海歴史民俗館
青函トンネル記念館だより No.26~No.31	北海道立 青函トンネル記念館	新潟県博物館協議会ニュース	新潟県博物館協議会
土車 第18号~第21号	平安博物館 研究部図書室	美友 第18号~第21号	熊本県立美術館
奈良県立民俗博物館だより No.4~No.28	奈良県立民俗博物館	はくさん 第4号~第9号	石川県白山 自然保護センター
創価学会ニュース No.151~No.161	創価学会沖縄本部	日展ニュース No.20~No.22	日 展
博物館ニュース No.27~No.31	秋田県立博物館	天文科学館ニュース 79~83	明石市立天文科学館
エスプラナード	福岡市美術館	美のたより No.55~No.58	大和文華館
時事日本 5086~5250	時事日本新聞社	資料館だより 第23号~第24号	船橋市郷土資料館
新潟県美術館だより 9~12	新潟県美術博物館	サントリー美術館	サントリー美術館
		民俗文化	滋賀民俗学会
		遺跡で知る原始・古代の社会 第15回	船橋市郷土資料館

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
韓国文化院友のニュース 博物館だより No.44~No.47 資料館だより 演劇博物館 45 博物館だより No.35~No.38 北九州市立美術館ニュース 27 青少年対策本部だより 80号 新美術館特集 51号 沖縄 第99号~103号 郷土資料館だより No.13 茨城歴史館だより No.22 主体美術 美術館ニュース No.25~No.27 繊維博物館ニュース No.1~No.7 繊維博物館の現状 岡山民俗 第144号~147号 モジリ・ウケの世界 九州・沖縄地方区ニュース No.55~No.56 博物館だより No.2 第15号~第16号 創設準備だより No.2~No.3 三岸好太郎・道化シリーズ展 中国の古脊椎動物 No.2 美術館ニュース 1981 8、6~No.5 石川美術館だより 第52号~第54号 くすり博物館だより 第8号 総合事務局報 第100号~第108号 SARANIP No.18~No.20 博物館だより S56.7.1 観覧のてびき //	韓 国 文 化 院 旭 川 郷 土 博 物 館 愛 知 県 陶 磁 資 料 館 早稲田大学演劇博物館 埼 玉 県 立 博 物 館 北 九 州 市 立 美 術 館 総 理 府 青 少 年 対 策 本 部 石 川 県 美 術 館 沖 縄 協 会 八 王 子 市 郷 土 資 料 館 茨 城 歴 史 館 主 体 美 術 協 会 事 務 局 群 馬 県 立 近 代 美 術 館 東 京 農 工 大 学 工 学 部 附 属 繊 維 博 物 館 // 岡 山 民 俗 学 会 沼 津 市 歴 史 民 俗 資 料 館 日 本 学 術 会 議 九 州 ・ 沖 縄 地 方 区 事 務 所 岐 阜 県 博 物 館 神 戸 市 立 博 物 館 北 海 道 立 三 岸 好 太 郎 美 術 館 国 立 科 学 博 物 館 原 爆 の 図 丸 木 美 術 館 石 川 県 美 術 館 く す り 博 物 館 沖 縄 総 合 事 務 局 市 立 函 館 博 物 館 伊 丹 市 立 博 物 館 山 形 県 立 博 物 館 教 育 資 料 館 山 形 県 立 博 物 館	十年のあゆみ No.43~54 沖縄工芸ニュース 9号 沖縄民俗研究会会報 第8号 会報 117 小松市立博物館だより No.2~No.4 博物館のひろば No.9~No.11 国立社研通信 第48号 国連ニュース 第357~第362 船の科学館友の会ニュース 13 科学万博ニュース No.4 動刻ニュース No.19 開館準備室だより 創刊号 兵庫県立歴史博物館準備室 だより テーマ展 天台寺 OIFニュース No.4~No.7 子規博だより No.1 那覇市史だより No.19号 鹿博だより No.1~No.3 文化福島 2月号~1月号 別府大学付属博物館だより No.11 あらく、みる、きく 169~181 museum No.359~No.360 日本の美術 5 会報 No.35~No.37 歴史手帖 4 みんなく 5月号~2月号 東京国立博物館美術誌 4月~11月 地質調査所月報第3号~第13号 明治村通信 5月~1月 中国研究月報 4月~5月 日本の美術 5~4	石川県立郷土資料館 沖縄県工芸振興センター 沖縄民俗研究会 岡山民俗学会 小松市立博物館 斜里町立知床博物館 国立社会教育研修所 日本国連合協会 日本海事科学振興財団 国際科学技術博覧会協会 東京デザイン工芸 株式会社 下関市教育委員会 兵庫県教育委員会 岩手県立博物館 沖縄県国際交流財団 松山市立子規記念博物館 那覇市史 鹿児島県立博物館 福島県文化センター 別府大学付属博物館 日本観光文化研究所 東京国立美術館 大阪市立博物館 宮古郷土史研究会 名嘉正八郎 国立民族学博物館 東京国立博物館 工業技術地質調査所 明治村東京事務所 中国研究所 至文堂



書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
日本美術 1979	東京国立文化財研究所	読谷村立歴史民俗資料館	歴史民俗資料館
横浜海洋科学博物館報 13	横浜海洋科学博物館	館報	鳳来寺山自然科学博物館
たばこと塩の博物館館報 4	たばこと塩の博物館	北海道立近代美術館年報	北海道立近代美術館
筑波大学芸術年報 1980	筑波大学	真贋 1	粟田美術館
山口県の博物館 56年度	山口県博物館協会	神奈川県立青少年センター	神奈川県立 青少年センター
安房博物館報 28~30	千葉県立安房博物館	南房の島と岬	千葉県立安房博物館
山口県立山口博物館館報 56年度	山口県立山口博物館	徳之島郷土研究会報	徳之島郷土研究会
琉球大学附属図書館30周年略 年表	琉球大学附属図書館	Bulletin of the National Science Museum	国立科学博物館
千葉県立大利根博物館報 No.2	千葉県立博物館	研究報告 第3巻	香川県自然科学館
史料館報 35~36	国文学研究資料館	沖縄打花鼓踊と中国花鼓戲の 比較	喜納盛昭
東京都埋蔵文化財センター 年報	東京都 埋蔵文化財センター	北大東島屏風岩洞穴群調査報 告	琉球大学探検部
熊本県立美術館年報 55	熊本県立美術館	書陵部紀要 32	宮内庁書陵部
セラミック九州	佐賀県立九州陶磁文化館	九州文化史研究所紀要 26	九州大学 九州文化史研究施設
館報 S55、No.2	岡山市立 オリエント美術館	博物館研究 3月~2月	日本博物館協会
市立市川博物館年報	市立市川博物館	第28回全国博物館大会報告書	〃
佐賀県立博物館年報	佐賀県立博物館	有形民俗資料調査報告書	鹿児島県明治百年 記念館建設調査室
〃 年報 No53~54	〃	伊延敏行氏標本 顕花植物編 I	徳島県博物館
長崎県立美術博物館年報 昭和55年度	長崎県立美術博物館	今帰仁の文化財	今帰仁村教育委員会
東京大学史料編纂所報 No15	東京大学史料編纂所	研究紀要 第4巻	名古屋市立博物館
阡陵 No.4	関西大学考古学等資料室	大宰府史跡	九州歴史資料館
ブリヂストン美術館館報	ブリヂストン美術館	高規の考古資料 I	高槻市教育委員会
京都国立博物館年報	東京国立博物館	訪中印象記	関西青年考古学 研究者友好訪中団
琉球大学30年	琉球大学	博物館学紀要	国学院大学 博物館学研究室
郷土と博物館	鳥取県立博物館	県内貝塚における動物遺存体 の研究	茨城県歴史館
釧路市立郷土博物館報 No.269~No.272	釧路市立 郷土博物館	鑛業博物館 13	秋田大学鉱山学部 附属鉱業博物館
館報 第2号	埼玉県立歴史資料館	博物館指導者研究協議会 報告書	日本博物館協会
埋蔵文化財発掘調査報告書	袋井市教育委員会	民俗博物館研究紀要 第5号	奈良県立民俗博物館
尾井市遺跡	尾井市遺跡調査団	文化財の保存 I	九州歴史資料館
殿内遺跡調査報告書	〃		
民藝342~345	日本民芸館		
会報 118~119	岡山・民俗学会		

名  
料館  
博物館  
美術館  
術館  
ンター  
博物館  
究会  
物館  
学館  
昭  
検部  
凌部  
施設  
協会  
年  
査室  
物館  
員会  
物館  
料館  
員会  
中国  
究室  
史館  
部  
物館  
協会  
物館  
斗館

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
壬遺跡 1981	国学院大学 文学部考古学研究室	石川県白山自然保護センター 研究報告	白山自然保護 センター
国立民俗博物館研究報告	国立民俗博物館	研究報告	長岡市立科学博物館
大平山元遺跡発掘調査報告書	青森県立郷土館	国立民俗学博物館研究報告	国立民俗学博物館
尻八館調査報告書	〃	研究報告	福岡市立歴史資料館
浦田の民俗	〃	沖縄県自然環境保全地域	沖 縄 県
わかりやすい学会発表とカラー ホイール法によるスライド作業法	川 島 由 次	南米における沖縄県出身移民 に関する地理学的研究	琉 球 大 学
北九州市立自然史博物館概要	北九州市立自然史博物館	宇堅貝塚群 アカジャンガー 貝塚	具志川市教育委員会
埋蔵文化財調査報告	神奈川県教育委員会	尖閣列島の植物	新 納 義 馬
名護市の遺跡	名護教育委員会	イリオモテヤマネコの保護と 住民の生活基盤の確保	日 本 環 境 協 会
久志貝塚	〃	紀要 7	埼 玉 県 立 博 物 館
平塚市史民俗調査報告書	平塚市市史編纂課	宮の本遺跡	佐世保市教育委員会
民俗学研究所紀要	成城大学民俗学研究所	資料館紀要 第9号~第10号	京 都 府 立 総 合 資 料 館
仙台市博物館調査研究報告	仙 台 市 博 物 館	宜野座の文化財 1	宜野座村教育委員会
浜松市天王中野遺跡発掘調査 報告書	浜 松 市 遺 跡 調 査 会	九州横断自動車道建設に伴う 埋蔵文化財緊急発掘調査報告 書 54	長 崎 県 教 育 委 員 会
人出視山遺跡発掘調査報告	津山市教育委員会	国指定重要文化財(建造物) 園比屋武御嶽石門修復のため の基礎調査報告書	那 覇 市 教 育 委 員 会
日上和田古墳	〃	那覇安里のフェースシマ	〃
史跡院庄館跡	〃	地下鉄鳥丸線今出川駅地点の 発掘調査	同 志 社 大 学 校 地 学 術 調 査 委 員 会
沼た遺跡 II	〃	南日本文化 第13号	南 日 本 文 化 研 究 所
四之宮上郷・下郷調査概報	湘南砂丘遺跡研究会	宮古研究 第3号	岡 本 恵 昭
大阪市立自然史博物館研究 報告	大阪市立 自然史博物館	古文書調査報告書 第35集	県 教 育 委 員 会
なすな原遺跡	なすな原遺跡調査会	研究紀要 No.6	宮 崎 県 総 合 博 物 館
第1回沖縄県青年教師の翼研 修報告書	県青年教師の 翼実行委員会	修理田遺跡 第5集	筑 紫 野 市 教 育 委 員 会
沖縄県自然環境保全地域 研究報告自然科学	天 野 鉄 夫	永岡遺跡 第6集	〃
浄土江遺跡	神奈川県立博物館	伊場遺跡8~13次発掘調査概 報	浜 松 市 遺 跡 調 査 会
研究報告	宮崎県教育委員会	研究報告 第6号	秋 田 県 立 博 物 館
本四架橋に伴う島しょ部民俗 文化調査報告	鳥 取 県 立 博 物 館	研究報告 第11号	愛 媛 県 立 博 物 館
鹿児島県大島郡統計書	瀬戸内海 歴史民俗資料館	研究報告 第11号	沖 縄 県 教 育 委 員 会
自然と文化 No.4	鹿児島県立図書館 (奄美分室)	沖縄県史料編集所紀要 第6号	沖 縄 民 俗 研 究 会
大磯丘陵の地質 No.27	平塚市博物館	沖縄民俗研究 第3号	
	〃		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
諫早、大村、北高来郡の文化財	長崎県教育庁文化課	早苗田D群10号墳 67	〃
ケイマンゴ一遺跡	〃	四箇周辺遺跡調査報告書 63	〃
長崎県民俗芸能民謡	〃	研究紀要 第7巻	東北歴史資料館
長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅳ	〃	南川の民俗	〃
研究報告 第24号	横須賀市博物館	琉球の制服と服装の研究No.3	橋本千栄子
資料集 第5号	〃	岐阜県博物館調査研究報告 第2号	岐阜県博物館
博物館建設中間報告	栃木県教育委員会	三川内・久賀島・野母崎の文化	長崎県立美術博物館
山口県の自然 No.41	山口県立山口博物館	日ノ岳遺跡	〃
研究報告 第7号	〃	人文科学紀要 第34巻	お茶の水女子大学
西原町の遺跡分布	西原町教育委員会	沖縄県社寺・御嶽林調査報告	沖縄県教育委員会
与那城貝塚	〃	東京都埋蔵文化財調査報告	東京教育庁文化課
櫛田遺跡群の調査	八王子市郷土資料館	秋吉台科学博物館報告 16	秋吉台科学博物館
金澤文庫研究	神奈川県立金沢文庫	倉敷考古館研究集報 16	倉敷考古館
大分県出身作家調査報告書	大分県立美術館	貝塚博物館研究資料 2	千葉市加曾利貝塚博物館
高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告	福岡市教育委員会	貝塚博物館紀要 6、7	〃
藤崎遺跡	〃	加曾利貝塚	〃
埋蔵文化財調査報告	〃	研究報告(自然科学) 第3号	三重県立博物館
板付周辺遺跡調査報告書	〃	立正大学教養部紀要 第14号	立正大学教養部
重要遺跡確認調査報告書	〃	群馬県立博物館紀要 第2号	群馬県立歴史博物館
三筑遺跡、次郎丸高石遺跡	〃	群馬の古代寺院の古瓦	〃
高柳遺跡	〃	本妙寺歴史資料調査報告書(古文書篇・美術工芸品篇)	熊本県立美術館
那珂深ヲサ遺跡	〃	尾張の歴史(常設展)	名古屋市博物館
板付会館調査に伴う発掘調査報告書	〃	Ⅳ近世・Ⅲ中世・Ⅱ古代	〃
今山、今宿遺跡	〃	北岡金比羅祀遺跡調査報告	南有馬町教育委員会
下月隈天神森遺跡	〃	地域文化研究 4	甲南大学地域文化研究会
方見堂遺跡 第52集	熊本県教育委員会	平安京跡発掘資料選	京都市考古資料館
赤見前田遺跡 第53集	〃	佐渡・相川の織物	相川町教育委員会
群馬県立歴史博物館常設展示解説	群馬県立歴史博物館	編む	埼玉県立博物館
瑞穂 福岡市比恵台地遺跡	福岡市教育委員会	琉大地理 第15号	琉大地理研究会
都地南遺跡 74	福岡市教育委員会	埋蔵文化財調査報告(本文編)久留米東バイパス関係 第28集	久留米市教育委員会
原深町遺跡 71	〃	〃 (図版編)	〃
博多 I 66	〃		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
久留米市文化財調査報告書 (筑後国府跡)	"	読谷村立歴史民俗資料館紀要 第5号	読谷村立歴史民俗資料館
" (筑後国分寺跡)	"	旧石器時代の東北	東北歴史資料館
南島文化研究所所報 第13号	沖縄国際大学	鹿児島民俗 73号~74号	鹿児島民俗学会
ケナガネズミ実態調査報告書	沖縄県教育委員会	Subsistence and Settlement in Okinawan. Prehistory-kume Ounllriomote	カナダの 考古学研究室
沖縄県洞穴実態調査報告Ⅳ 調査報告集 2	" 国立民族学博物館 情報管理施設	沖縄・小笠原の自然 研究調査報告書 第8集	世界文化社 浦和市郷土博物館
瑞浪層群の化石 1. 可見・瑞浪盆 地の植物 2. 貝類(軟体動物)	瑞浪市化石博物館	八重山民俗芸能 (3)	県教育庁文化課
Mouseion 27	立教大学博物館研究	南科研資料センター報告 No.27	鹿児島大学
宇宿港遺跡	笠利町教育委員会	大田十二社遺跡 第10集	津山市教育委員会
太宰府町の文化財 第4集	太宰府町教育委員会	調査研究書 第6集	佐賀県立博物館
釧路市立郷土博物館紀要	釧路市立郷土博物館	第2回沖縄県青年教師の翼研 修報告書	県青年教師の 翼実行委員会
桜台遺跡発掘調査報告書	野田市郷土博物館	神奈川県立博物館研究報告 第9号	神奈川県立博物館
本郷遺跡発掘調査報告書	"	" 発掘調査報告書	"
西輪久道遺跡・鷹野遺跡	長崎県教育委員会	河内平野の生いたち	大阪市立自然史博物館
鹿児島民具 第2号	鹿児島民具学会	Annual Repeort No.7	筑波大学
人類文化 第3号	人類文化研究会	自然史研究 No.15	大阪市立自然史博物館
地域科学 No.1	沖縄地域科学研究所	大阪市立自然史博物館研究報 告 No.35	"
津山市埋蔵文化財発掘調査 報告 第9集	津山市教育委員会 社会教育課	沖生教研会誌 No.14	沖縄生物教育研究会
多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財 センター	沖縄県総合運動公園基本計画 報告書	沖縄県(社) 日本公園緑地協会
知床博物館研究報告 第3集	斜里町立知床博物館	熊本城(城郭模型製作記録)	熊本市
国史学研究 第7号	龍谷大学国史学研究会	那覇市の文化財	那覇市教育委員会
貿易陶磁研究 No.1	日本貿易陶磁研究会	那覇の民話資料(小禄地区)	"
沖国大考古 第5号	沖国大文学部考古研究所	園比屋武御嶽石門き損調査報 告書	"
とやまと自然 第4巻(秋の号)	富山市科学文化センター	園比屋武御嶽石門修復のため の基礎調査報告書	"
陶磁器の歴史	愛知県陶磁研究会	那覇の民話資料(真和志地区I)	"
伊武部貝塚発掘調査速報	沖縄県教育委員会	" (真和志地区II)	"
岩橋千塚とその周辺	和歌山県立紀伊風土 記の丘 管理事務所	研究論集 7	九州歴史資料館
京都府埋蔵文化財情報創刊号	京都府埋蔵文化財 調査研究センター	南島研究 第22号	南島研究会編
鶴頭山紀要 創刊号	小禄高等学校	majaa 創刊号	琉球哺乳類研究会
野尻湖発掘展	群馬県立博物館		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
建設	鄭明能自然研究室	太宰府天満宮所蔵古文書目録	太宰府天満宮文化研
文学部紀要(社会学科篇)	冲国大文学部	熊本県立美術館所蔵品目録	熊本県立美術館
長浜の民話	読谷村歴史民俗資料館	民俗資料関係目録	藤沢教育文化研究所
紀要 No17	嵯峨美術短期大学	仙台市博物館図録I	仙台市博物館
インド・オリッサ州の仏教遺跡 一調査報告篇一	"	岩手のスマレ図録	岩手県立博物館
冲生教研会誌 第14号(宮古特集)	冲縄生物教育研究会	西武古書展示即売会目録	西武百貨店
Pleistocene Human Bones Found at Pinza-Abu(Goat Cave) Miyako Island-a Short Report	佐倉朔	化石資料目録	鳥取県立博物館
日本常民文化研究所調査報告紀年銘 民具目録・図録	日本常民文化研究所	昆虫類目録	"
わたしたちの自然史	北九州自然史友の会	平塚市博物館所蔵資料目録II	平塚市博物館
琉球列島における島嶼生態系とその人為的変革II	琉球大学理学部生物学科	浜松市博物館所蔵紀年銘民具目録	浜松市博物館
Research Bulletin No49	齋藤報恩会自然史博物館	浜松市博物館第6回企画展文字の書かれた民具出目録	"
大手前一大阪城三の丸跡一	大手前女子大学史研究所	安土堂書店古書目録 第10号	安土堂書店
松江考古 第4号	島根県立博物館	須加原コレクション展	神奈川県
研究報告(自然科学) 第28号	横須賀市博物館	新匠工芸展覧會図録	ニューカラー写真印刷
東京都町田市武蔵岡遺跡	武蔵岡遺跡調査会	郷土資料目録	鹿児島県立図書館奄美分館
久里原貝塚(調査報告書)	伊平屋村教育委員会	救世熱海美術館名宝展	救世教
南日本文化 第14号	南日本文化研究所	近代日本美術の巨匠展	広島県立美術館
細田遺跡	神奈川県教育委員会	親子で楽しむ古美術展	仙台市博物館
宇宿港遺跡・カシノハナ古墳群	熊本大学文学部考古学研究所	日本人の祈り小絵馬	奈良県立民俗博物館
埼玉県立博物館館有資料目録III	埼玉県立博物館	愛知県陶磁資料館	愛知県陶磁資料館
資料目録 No17	郵政省逓信博物館	江戸のよそおい'81特別展	埼玉県立博物館
古書画・日本画・洋画・諸道具	日本美術品競売(株)	日本古代の馬文化展	馬の博物館
北海道立三岸好太郎美術館所蔵品目録 1981	北海道立三岸好太郎美術館	東美オークション 第9回	東京美術商協同組合
第31回 モダンアート展	モダンアート協会	" 日本洋画・外国美術	"
modern art 1981	"	第17回 主体展陳列目録	主体美術協会
津軽藩の絵馬	馬事文化財団	法皇塚古墳	市立市川美術館
冲縄戦後資料目録	琉大教育学部野原朝秀	岩手の大絵馬展	岩手県立博物館
山下一夫採集植物標本収蔵資料目録 (1)事業計画	山形県立博物館	縄文土器大成 第3巻 後期	講談社
		ふるさとの美濃古陶	岐阜県博物館
		特別展葛城の古墳と古代寺院	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
		特別展 多摩の神道・垂迹美術	八王子郷土資料館
		古書販売目録	福地書店

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
「モーリス・ドニ」展目録	京都国立近代美術館	かねひで	金秀鉄工所
雑誌・展示目録	沖縄県立図書館	モンキー 25-1~181	日本モンキーセンター
1981 秋季特別オークション	日本美術品競売(株)	浜田庄司	群馬県立近代美術館
特別展 古代の九州人展	宮崎県総合博物館	須田国太郎	京都国立近代美術館
沙羅書房古書目録 第23号	沙羅書房	私と科学・技術	科学技術庁振興局 普及啓発課
知床博物館 第3回特別展	斜里町教育委員会	パスキン	北海道立近代美術館
古典目録	中尾松泉堂書店	モダンアート協会の記録 1980年	モダンアート協会
熊本的美術展 豪潮	熊本県立美術館	西陣グラフ No.294~304	西陣たより社
近江の各室	滋賀県立琵琶湖文化館	記念誌 渡名喜小学校	比嘉松吉
世界の現代陶芸展	佐賀県立九州陶磁文化館	古代文化 5~11	古代学協会
キノコ・カビ	自然科学と博物館	沖縄県の歴史	沖縄時事出版
アプローチ	瀬底恒	旅	日本交通公社
韓国デスク・ダイアリー	那覇大韓国領事館	彫る楽しさがいっぱい	淡交社
阪急古書のまち	阪急古書のまち	石川日記	郷土資料館資料
館蔵品目録II	岡山県立博物館	熊本県文化財一覧	熊本県教育委員会
法隆寺献納金銅仏	奈良県立博物館	全国史跡整備市町村協議会 大会	叢文社
法隆寺展	飯塚市歴史資料館	やんばる 18	山原の自然を守る会
西安出土漢代文物展	日本美術院	染織の美	京都書院
春の院展 全作品展 No.36	北海道立 青函トルネル記念館	地学的特性を考慮した地震動 災害予測研究	自然災害科学 総合研究班
津軽海峡の地質展 資料目録	白鶴美術館	Natural Disaster Science	AIMS, AND, SCOPE
白鶴美術館 蔵品目録	慶文堂書店	福州	中国福州市長
慶文堂 古書目録	群馬県立歴史博物館	会報 3	沖縄言語研究センター
写真でみる群馬	北九州中国書店	佐分真 遺作展	丸の内画廊
中国歴史考古図書目録	岩波映像販売(株)	琉球の方言	法政大学沖縄文化研究所
岩波映像 社会教育映画	日本経済教育センター	椿説弓張月 平岩弓枝	学習研究社
わが国の科学技術	井上書店	国東の庶民信仰	国東町教育委員会
古典籍特輯目録	憲政記念館	日本の美術	文化庁
憲政史特別展 第五回展示目録	滋賀県立近江風土記 の丘資料館	躍進 1981年5月号	沖縄県推進協議会
近江の銅鐸と銅鏡	埼玉県立博物館	佼成	〃
埼玉県立博物館展示解説	琉球銀行	見る、食べる、遊ぶ、るるぶ	日本交通公社
りゅうぎん 165~179	沖縄県立 精神衛生センター	雄飛	沖縄県海外協会
こころの研究 第7号	山形大学附属博物館	広島修大論集	広島修道大学人文学会
美術資料目録			

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
SCIENCE REPORTS SEC	筑波大学、地球科学	わざ	沖縄県文化財修理 技術者協会
南京史活・髹飾録	宮城篤正	夕照	曾得標
名古屋民俗	名古屋民俗研究会	染色の美 12	紫紅社
文明のクロス・ロード	博物館等建設推進会議	ガイドブック	岩手県立博物館
郷土と博物館	鳥取県立博物館	ふるさとの民話南風原町	南風原町教育委員会
鳥取県の自然と歴史	〃	教育法令集	第一法規出版(株)
三味線の歴史	大村運月	秋の園芸	タキイ種苗(株)
祖先崇拜の美風と迷信	〃	相模湾の魚と漁撈	平塚市役所
法政考古学	法政考古学	ピカソ陶芸展	ピカソ陶芸展実行委員会
歴史教育	東京法令出版株式会社	Museum Kyushu	博物館等建設推進会議
相模川河口の自然ガイドブック1	平塚市博物館	用	工芸学会
ローム層をさぐる 〃 2	〃	巴里のキッテ 2	北海道近代美術館
緑と生活	新報出版	マックス・クリンガー版画集	〃
明治のたたずまい	講談社	構造	『構造』、出版部
宮城健盛 画集	宮城健盛	上野山清貢展	北海道近代美術館
史学雑誌	岡本恵昭	日本語の世界	外間守善
禪文化	〃	郷土の甲冑と刀展	岩手県立博物館
佛教の生活	〃	美をもとめて	TBS映画社
花園	〃	第12回東レ理科教育賞 受賞作品	東レ科学振興会
東京都の自然	東京都高尾 自然科学博物館	民話伝説	粟国村教育委員会
日本の仏教を築いた人々	奈良国立博物館	関流後藤礎右衛門の算額	成田山霊老館
代々木アートギャラリー一開廊 記念展	代々木 アートギャラリー	種子島博物館	西之表市教育委員会
市民の友 364~378	那覇市役所	わたしたちの種子島	〃
目の眼 5月~9月	里文	〃 (民俗編)	〃
地域科学	沖縄地域科学研究所	琉球林業協会20年のあゆみ	琉球林業協会
えびね銘鑑	池田書店編集部	美術資料	国立中央博物館
らん 4号	〃	日本の都市計画 No.50	日本経済教育センター
「沖縄タイムス賞」受賞者 氏名一覧	天野鉄夫	come to flandar come to marlforo	日本民俗美術 コレクション
大分県美術総合選抜展 '80	大分県立美術館	薩摩文化	鹿児島短期大学
高山辰雄展	〃	百年の歩み	真壁小学校
記念写真集	表千家同門会	御用所日記抄	岩国徴古館
		新美術新聞	美術年鑑社

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
房総漁民の風俗集	千葉県立安房博物館	丸の内現代具象展	丸の内画廊
西郊民俗	西郊民俗談話会	邪馬台国99の謎	ヤスダ氏
通信博物館業務のあらまし	通信博物館	歴史の中の日本と朝鮮	"
青い海	青い海出版社	国立民族博物館要覧	国立民族博物館
会員名簿・便覧	日本美術家連盟	創造の森	朝出版社
熊本県美術家連盟会員名簿	熊本県立美術館	海の社会科学	日本海事広報協会
ふるさとの昔ばなし	具志川市教育委員会	太宰府天満宮連歌史資料と研究	太宰府顕彰会
熱海に世界へ誇る美術館	救世教	福岡市文化財分布地図 (東部工)(西部工)(中部・南部)	福岡市教育委員会
知床の野鳥観察	斜里町知床博物館	世界のエネルギー事情	日本経済教育センター
知床博物館展示解説書	"	国際経済機構の活動と日本	"
龍潭百年	渡名喜ミサ	生活の質的充実とその課題	"
pass time	オキナワバスタイム	創立25周年記念誌	安富祖竹久氏
古戦場	暁教育図書	鹿児島県植物方言集	鹿児島県立博物館
津山町火消史料	市立津山郷土館	美術手帖	美術出版社
長浜の民話	読谷村教育委員会	大介の海	日本海事広報協会
第17回主体展作品合評集	"	博物館の世界	巾公新書
墨青	日本墨青会	杉並区教育要覧	杉並区教育委員会
博物館学講座	雄山閣出版	凶解キリシタン風土記	仲村渠常博
沖縄の祭祀と行事料理	国際料理学院	人間の真理	明玄書房
緑と生活	緑と生活社	徳之島採集手帳	徳之島郷土研究会
坊津の詩	坊津町役場	コレクター1000人が賞を選ぶ 1982年 展覧集	(株)ギャラリーかねだ
薩摩藩王政物語	乾純之助	Japan art Auction	日本美術品競売(株)
ミニ日本美術年表	芸心社	美術の窓	生活の友社
世界文化史年表	"	現代社会と福祉	日本経済教育センター
博物館関係法令集	日本博物館協会	日本やきもの集成	平凡社
出版ダイジェスト	二玄社	「老化」研究の現状	東レ科学振興会
絵具箱からの手紙	ホルベイン工業株式会社	水質汚濁を考える	日本環境協会
やんばる100年写真集	那覇出版社	TK型マーコ	東信商事
多良間村の民話	多良間村役場	山村の生活展あんない	東北歴史資料館
絢爛たる町人文化の開花	旺文社	世界美術旅行シリーズ	富士海外旅行(株)
嘉手納農林昭六會誌	天野鉄夫	1980年世界農林業・センサス 農家調査農業集落別結果表 宮古・八重山/島尻部/中頭部/ 国頭部/市部	沖縄県企画調整部 統計課
ブナ林の自然	白山自然保護センター		
沖縄県の歴史	玉城崇		
年表・日本歴史	筑摩書房		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
沖繩	県 広 報 課	沖繩県行政記録	県 総 務 部 広 報 課
池間島の民話梗概	平良市教育委員会	技術情報	沖繩県工業試験場
平良市の文化財	〃	業務報告	〃
那覇市統計書	那覇市役所企画部企画課	沖繩の風水害	開発建設部河川課
沖繩の統計	企画調整部統計課	キャンプ・ズケラン基地の文化財	宜野湾市教育委員会
那覇市勢要覧	那 覇 市 役 所	掘り出された沖繩の歴史	県 教 育 委 員 会
議会事報	沖繩県議会事務所	沖繩カンカラ三線	平 良 孝 七
文部広報	文 部 省	伊平屋村史	伊平屋村史発刊委員会
文化行政要覧	沖繩県教育委員会	沖繩県の経済概況	企 画 調 整 部
教育沖繩	〃	沖繩経済動向	〃
沖繩県統計年鑑	沖 繩 県	県民選好度調査資料編	〃
文化行政	県 民 文 化 課	特集 渡り鳥	国立科学博物館
青少年	沖繩県 青少年育成県民会議	編集ニュース	八王子市郷土資料館
所報	県立石川自然の家の家	新具象	新 具 象 彫 刻 展
国・県指定文化財一覧	沖繩県教育委員会	見える？	北海道立近代美術館
市町村指定文化財一覧	〃	箱で考える	〃
平良市史	平 良 市 役 所	現代美術展	〃
大きな和	沖繩県自治研修所	連盟ニュース No.281	日本美術家連盟
四本堂家礼	沖繩県教育委員会	博物館だより No.5	群馬県立歴史博物館
沖繩県勢のあらまし	企 画 調 整 室	奈良県観光 第303号	奈良県観光新聞社
農業関係統計資料	沖繩県農林水産部	わが国の省エネルギーの現状	日本経済教育センター
沖繩県農林水産行政史	農 林 統 計 協 会	名蔵貝塚郡発掘調査報告	沖繩県教育委員会
琉球金石文拓本集成	沖 繩 県 立 図 書 館	春の青少年育成県民運動実施要綱	沖繩県青少年 育成県民会議
本部町の文化財	本 部 町 教 育 委 員 会	県民ハンドブック	沖繩県総務部広報課
要覧	沖繩県教育委員会	文化科学館だより	佐世保市文化科学館
公済時報	教 育 庁 福 利 課	資料館報 第36号	国 立 史 料 館
共済広報	〃	伊皿子貝塚遺跡	港区伊皿子 貝塚遺跡調査
沖繩の振興開発	沖繩開発庁総合事務局	沖繩の島じまをめぐる	沖 繩 地 学 会
沖繩県の教育	沖繩県教育委員会	瑞浪市化石博物館研究報告	瑞浪市化石博物館
教育沖繩	〃	収蔵資料目録	馬 の 博 物 館
大原 久米島大原貝塚群発掘調査報告	県 教 育 委 員 会	1960年代現代美術の転換期	国 立 近 代 美 術 館
16ミリ映画フィルム目録	社 会 教 育 課	石黒宗磨展	〃
社会教育の現況	〃		

書名	寄贈者名		
マチス展	〃	館藏品図書	神奈川県立博物館
20世紀カナダ絵画展	〃	日本の自然コーナー企画展示	北九州市立自然史博物館
現代ガラスの美 (ヨーロッパと日本)	〃	祈りの歴史 絵馬	名古屋市博物館
東山夷展	〃	MOA美術館	MOA美術館
現代ガラスの美(オーストラリア、カナダ、アメリカと日本)	〃	家計と物価	日本経済教育センター
ポンピドウ・センター/20世紀の美術	〃	美術出版教材カタログ(生徒)	美術出版社
現代の食器 注ぐ	〃	〃 (総合)	〃
八木一夫展	〃	木と漆の原始工芸	埼玉県立博物館
ムンク展	〃	THE SECOND WORLD WAR VOLUME I~IV	等々力孝志
		東美オークション洋画・彫刻	東京美術商協同組合

### 5. 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表

#### (1) 国指定文化財 重要文化財

昭和57年4月1日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	県立博物館	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃	〃
工芸	銅鐘(首里城正殿前鐘)	1口	昭53. 6. 15	県立博物館	沖縄県
	梵鐘(旧円覚寺殿前鐘)	3口	〃	〃	〃
	梵鐘(旧円覚寺殿中鐘)				
	梵鐘(旧円覚寺楼鐘)				

#### (2) 県指定文化財 有形文化財

種号	名称	員数	指定年月日	所定年月日	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書	1軀1枚	昭33. 3. 14	県立博物館	沖縄県
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃	〃
絵画	絹本着色花鳥図 殷元良筆	1幅	昭54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
	紙本着色雪中雉子の図 殷元良筆	〃	〃	〃	〃
	竹の図 殷元良筆	〃	昭57. 4. 1	〃	〃
	奉使琉球図巻 朱窪年筆	1巻	〃	〃	〃
工芸	三味線江戸与那	1挺	昭33. 8. 15	県立博物館	沖縄県
	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	昭33. 3. 14	〃	〃
	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	昭31. 12. 14	〃	〃
	黒塗堆綿山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	〃	〃	〃
	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54. 9. 3	〃	〃
	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
典籍	象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
〃	中山世譜	19冊	〃	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	県立博物館	沖縄県
	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1巻	昭49. 11. 11	〃	〃
	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1通	昭53. 4. 1	〃	〃
	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1副	昭56. 3. 30	〃	〃

# 当館関係条例規則（抄）

## ○沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年5月15日 条例第24号）

最終改正 昭和53年3月29日条例第16号

（趣旨）

**第1条** この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

**第5条** 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

（博物館協議会）

**第6条** 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

## ○沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年5月15日 教育委員会規則第2号）

最終改正 昭和53年4月1日教育委員会規則第1号

（趣旨）

**第1条** この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

**第2条** 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の係を置く。

庶務係

学芸係

教育普及係

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (7) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (8) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (9) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (10) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (12) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。
- (13) 前各号に定めるもののほか、博物館に関する必要な事務に関すること。

○ 沖縄県立博物館の管理に関する規則 (昭和47年5月15日  
教育委員会規則第13号)

(沿革) 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに公布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

(趣旨)

**第1条** この規則は、沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

**第2条** 館長は、博物館の施設、設備(備品を含む。以下内じ。)を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

**第3条** 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

**第4条** 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

**第5条** 消防法(昭和23年法律第186号)第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

**第6条** 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服規程(昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号)の定めるところによる。

(職員の服務等)

**第7条** 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

**第8条** 文書の処理については、教育庁文書管理規程(昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号)の定めるところによる。

(開館時間)

**第9条** 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

**第10条** 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する日
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

**第11条** 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書(第1号様式)又は寄託申請書(第2号様式)を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書(第3号様式)を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄託を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

**第12条** 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

**第13条** 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

**第14条** 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

**第15条** 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

**第16条** 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

**第17条** 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

**第18条** 博物館施設（講堂、第5陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適當であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

**第19条** 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

**第20条** 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

**第21条** 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

**第22条** この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

#### 附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和53年9月28日教育委員会規則第5号）

この規則は、公布の日から施行する。

第1号様式 (第11条関係)

博物館資料寄贈申込書

昭和 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申込者 住所 氏名 ㊟

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

1	種別
2	作者名
3	作品名
4	製作年月日
5	附属日
6	資料の所在地
7	時価見積額
8	寄贈の理由

受諾書

上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。

昭和 年 月 日

沖縄県立博物館長 ㊟

第2号様式 (第11条関係)

博物館資料寄託申請書

昭和 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 住所 氏名 ㊟

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。

記

1	種別
2	作者名
3	作品名
4	製作年月日
5	附属品
6	資料の所在地
7	寄託期間

昭和 年 月 日から  
昭和 年 月 日まで

第3号様式 (第11条関係)

博物館資料受託承認書

昭和 年 月 日

殿

沖繩県立博物館長 ㊟

昭和 年 月 日付け申請のあった博物館資料の寄託については、下記により受託します。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 受託期間 昭和 年 月 日から 昭和 年 月 日まで
- 7 備考

第4号様式 (第18条関係)

博物館施設使用許可申請書

昭和 年 月 日

沖繩県立博物館長 殿

申請者氏名 ㊟

電話

下記により貴館施設を使用したいので、許可して下さるようお願いいたします。

記

- 1 使用者
  - 団体名 \_\_\_\_\_ 及び \_\_\_\_\_
  - 代表者名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_ 職業 ( \_\_\_\_\_ )
  - 住所 \_\_\_\_\_ 電話 \_\_\_\_\_
- 2 使用目的 \_\_\_\_\_
- 3 使用する施設：1 ホール \_\_\_\_\_ 2 臨時陳列室 \_\_\_\_\_
- 4 使用する日時及び期間
  - 自：昭和 年 月 日 午 時 分 ( )
  - 至：昭和 年 月 日 午 時 分 日間
- 5 予定参加人員 \_\_\_\_\_ 人
- 6 その他必要な資料 (プログラム等)

許可書

昭和 年 月 日 日付申請の ( ) 使用の件、申請どおり許可します。

沖繩県立博物館長 ㊟

○ 沖縄県立博物館協議会規則 (昭和47年10月2日  
教育委員会規則第29号)

(趣旨)

**第1条** この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

**第2条** 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

**第3条** 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

**第4条** 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

**第5条** 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

(会議)

**第6条** 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

**第7条** 委員は、その職務を行なうために必要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

**第8条** 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

**第9条** この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年5月15日  
条例第37号）

最終改正 昭和54年3月29日条例第16号

（趣旨）

**第1条** この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

（使用料の徴収）

**第2条** 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

（使用料の納間）

**第3条** 使用料は、前納とする。

（使用料の減免）

**第4条** 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

（使用料の不還付）

**第5条** 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（罰則）

**第6条** 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

（教育委員会規則への委任）

**第7条** この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和53年3月29日条例第16号抄）

1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。

2 この条例は、昭和54年4月1日から施行する。

別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一般	100 円
大学生及び高校生	50 円
中学生及び小学生	20 円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖繩県立博物館年報No.15 (昭和56年度)

昭和57年8月31日発行

編集・発行 沖繩県立博物館

住所 沖繩県那覇市首里大中町1の1

〒903 TEL: 0988-84-2243  
86-4353

印刷 (資) 栄光堂印刷

住所 沖繩市字比屋根1426

TEL: (09893) 3-1341(代)  
(0988) 66-4186(那覇)